

創立20周年記念会報

20年のあゆみ



横浜発明懇話会

1961～1981



これは会の記章でハマ発を図案化したものです。

昭和38年2月、会員中より募集したところ12名の方から22件の提案がありました。

昭和38年4月12日審査を行い、松波秀利氏の案が入選と決まり、7月17日の総会で正式に本会記章として承認されました。

入 選	松波	秀利		
佳 作	山田	美喜雄	田嶋	孝二
	小島	富士雄	柴山	淳彦
	尾崎	勝敏	宮本	松藏

入賞者には総会において、入選5千円、佳作2千円の賞金を授与し、応募された方にはそれぞれ記念品を贈呈しました。

目 次

—創立20周年を祝して—

横浜市長	細郷道一	1
元横浜市長	半井清	2
日刊工業新聞社 神奈川支社長	海沼純一	3
顧問	中本守	4

—創立20周年を迎えて—

会長	小林甲蔵	6
副会長	成宮庄次郎	7
副会長	川村秀義	8

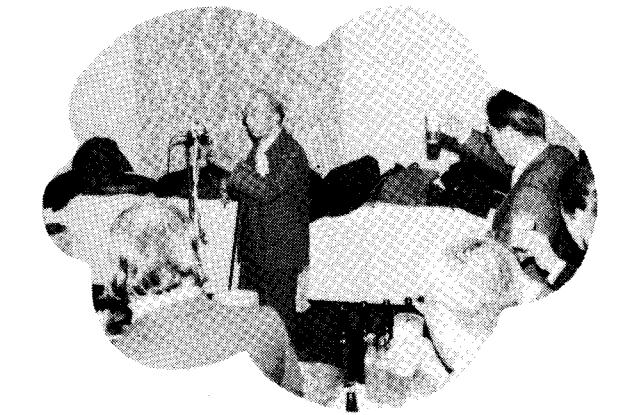
—創立20周年にあたって—

記念行事		9
横浜発明懇話会 の新しい使命	鈴木洋二	13
試行錯誤 年の瀬のたびに 思わせられること	佐藤正美	14
C型鋼の誕生	山崎一男	15
発明方法の型	太田恒次郎	16
	三橋良夫	17

20年の歩み

1.はじめに	19
2.会の生まれた土壤	19
3.会の生まれるまで	21
4.創立総会	25
5.20年間の活動状況	26
(1)事業の実績	26
日曜発明教室を開設	26
日曜発明教室発表作品展示コンクール	31
発明考案展	31
発明奨励金の交付	32
自社製品開発研究会	33
講演会	34
見学会	35
ニュースの発行	37
総会	39
(2)創立より20年間の会員の推移	42
(3)財務について	43
(4)事務局について	47
6.創立20周年在籍会員名簿	49
7.あとがき	53





堺 明 誘 技

半 井 情

(昭和 56年4月 92才)

創立20周年を祝して



横浜市長

細郷道一

横浜発明懇話会の創立20周年にあたり心からお祝い申し上げます。

貴懇話会は、横浜市の産業振興の一環として、昭和2年全国にさきがけて発明奨励普及のため発明協会横浜支部としての発足が前身ときいております。

その後名称の変更がいくたびかあって昭和36年に現在の横浜発明懇話会となつたものですが、以来20年間皆様には、発明の振興に御尽力いたわせです。この御尽力により、横浜産業の発展、ひいては、日本経済の発展がもたらされたといつても過言ではなく、深く敬意を表します。

皆様すでに御承知のとおり、自動車、カメラをはじめとする日本の製品が、品質、数量ともに世界一となつたものが多くを数えるようになりましたが、これは戦後から今日まで積極的に技術導入を図るとともに独自の技術開発に努めた結果であると思います。

これからは、開発された技術の導入にたよらず新技術の開発に努めねばならないでしょう。その意味において、当懇話会の存在もますます意義を増す

こと思います。

さて、1980年代の幕明けの昨年以降もわが国の社会経済の動向は厳しいものがあり、今なお不確定な面と先行き不透明さが感じられる状況にあります。このような中で私どもはしっかりととした目標をもって着実に市政運営を進めていくことが肝要であると思っております。

特に本年は、21世紀を展望する街づくりのため長期間にわたる新総合計画を市民の皆様の御意見をいただいて策定し、安全かつ快適で魅力とロマンにあふれる横浜を創る太い路線を敷きたいと考えています。

その節には皆様が平素養われている優れたアイデアを行政にも寄せていただければ幸いと存じます。

さきの臨時総会で、横浜発明懇話会を「横浜発明振興会」と名称を改められましたが、20周年の節目としてこの会が今後ますます発展されますよう祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

創立20周年を祝して



横浜信用金庫会長
元 横 浜 市 長

半 井 清

私は、若い時から発明には非常に深い関心を持っておりました。

と申しますのは、資源の乏しい我が国の産業経済を発展させるには頭の中から生まれて来る創造力にたよる他はないからです。

私自身、一生の中でなにか世の中に役にたつものを一つやり遂げたいと常に考えておりましたが、県知事、市長等の職は激務であり念願を果すことが出来ない、それならせめて他人のよい発明を世に出すために骨を折りたいと考えた。

昭和16年横浜市長となつた当時、横浜市には発明協会横浜支部があり、全県下を対象に事業を行っていた。

横浜市の発明奨励事業を活発化するため、支部を県に移すため近藤知事と話し合い昭和18年に移管し、横浜市には新たに横浜市部会を設けた。

専従者を置き、相当の予算を付け、活発な活動を行つた。

昭和34年再び市長となり、横浜市部会の状況を諮問したところ、発明協会本部の意向で再建不能のことだつ

た。そこで、その方面に熱心だった小林甲蔵さんに発起人をお願いし、横浜発明懇話会を創立いたしました。

誠に早いもので、あれから20年たちましたが、発明懇話会はいつも熱心に発明振興事業を推進されて居り、私も毎年開催される総会、新春懇親会には名誉会員として今までほとんど欠席したこと�이ありません。

日曜発明教室や講習会にも幾度か出席し、92才になった今日でも、相変わらず発明には深い関心をいただき続けて居ります。

創立20周年を迎えたということは誠に夢の様な感じがいたし、小林会長をはじめ役員の方、会員の皆様の御努力に深い敬意を表するとともに、一般横浜市民にとっても大変結構なことと感謝申し上げます。

20年を節目に更に活発化する努力をされていることを知り心強く感じております。益々盛会になりますよう祈念してお祝いのことばと致します。

創立20周年を祝して



日刊工業新聞社 神奈川支社社長

海 沼 純 一

横浜発明懇話会が創立20周年を迎えたことに対し、心からお喜び申し上げます。

80年代も2年目に入り、わが国をとりまく内外の諸情勢は極めて厳しく、決して樂観は許されません。

今や世界的なエネルギー危機で、主要各国とも軒並み長びく不況とインフレに苦悩しております。その中にあってわが国経済は、これまで柔軟な対応により、一応安定完成を続けて参りましたが、最近になって景気にかけり現象が現われてきました。

とりわけ資源小国といわれるだけに、産業界の受ける打撃は深刻で、エネルギーをはじめあらゆる原材料に制約を受け、まさに試練の場に立たされないと申しても過言ではないと思います。このような苦境を乗り越え、豊かな80年代を切開いて行くにはどうしたらよいか。それには技術革新と国際協調を進めること以外にないとさへいわれております。国際協調につきましては、政府の施策にまつところが大きいので、さて置くとしても、技術革新は産業界が

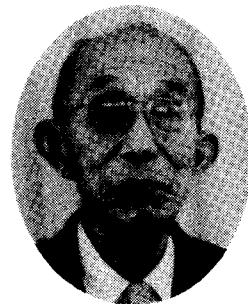
こぞって真剣に取り組まなくてはならない課題であると思います。

貴会は発明考案こそ無限の資源であるとの観点から、その振興を助成するばかりか発明家と事業家の交流の場をつくろうというのが設立の趣旨であると伺います。

いわば発明考案を産業界に橋渡しして技術革新に直結する生きたものにしようとする団体で、その存在はまさに時代の脚光を浴びてきたということができましょう。これまでの歩みは会の性格上決して派手なものではありませんでした。

しかし地味ではあるけれど堅実な絶ゆまぬ努力に深甚の敬意を表わし、やがて時代の要求に応え大きく花開く時が必ず来ることを確信しております。意義深い貴会の創立20周年に重ねてお喜びを申し上げるとともに、これを契機にますます研鑽を積まれ、産業界の発展に貢献することはもとより豊かな80年代を築く原動力になられますことを念願してやみません。

創立20周年を祝して



米寿を迎えて

顧問 中本 守

明治27年1月1日生れの筆者は今年元旦満87才、無事に米寿を迎えた。幸に心身共に元気である。精密検診で、生理的には年齢より15年若いとの侍医の言葉には鰐が読んであるにしても、朝な夕な時の経過に追いまくられ正在忙しい毎日で、年を感じる暇が無いと言うのが昨今である。米寿を祝福して下さる方々からの長生の秘訣は、との間に答えて曰く、

楽しかった過去の思い出に生きるとの老人の通癖から脱却し、より良い明日を考え、より明るい末年を創想し、優れた将来を夢想し、これらの具現を工夫し努力している。と。

ここで脳生理学の権威故時実医学博士（東大名誉教授）から直かに承った「人間の身体は出生より成長し続けるが、成人期に達してその成長は停止し、同時に老化が始まり年と共に進むが、大脑は出生から終焉まで成長し続け止まることがない。而してその成長度は独創性なる人類にだけ恵まれた特性の鍛錬度を發揮度とに依る。そしてこの大脑の成長は長生の源泉ともなる。昔

の百姓が若死したのはこの大切な独創性の鍛錬や活動を怠り、先祖伝来の農法をそのまま模倣踏襲するのみで、成長期を過ぎても不可欠の休養を怠り、肉体を酷使したため」とのお話を思い出す。

当今定った時刻に定った場所に出向くことはないが、関係団体や会社に出向いて、助言したり、講演したり原稿を書いたりするが、この年輩では思い付きでお茶を濁す訳にも参らず、智恵を絞り真剣に取り組んでいる。こんなことで時実先生の学説に添って長生に役立っているとも考える。こんなに大きさでなくても、日常茶飯事、例えば良い手紙を書いて相手を満足させ、簡潔で心のこもった端書で相手を納得させたいと努めている。字数に制限のある端書は手紙に比べて段違いに難しく、苦心する。こんなことでも大脑の成長に何がしか役立つ、これがまた長生に繋がっているのだろう。

以上は個人的の話だが、企業にも当て嵌まる。企業の責務は社会の文化水準を高める物件を創想し具現し生産し

て社会に提供するにある。これが発明、開発、生産である。中でも不可欠なのは創造力による発明と開発とである。わが産業が素晴らしい発展して日本を経済大国に育て上げた。だがその製品は国際的に排斥されている。何故だろう。それは企業が責務の発明開発を怠り、他国の苦心の生産方法に頼っているからである。たとえそれが彼我納得の上で合法的に行われているにもせよ、感情的に日貨を排斥するのも頗ける。これでは時実博士の御説を挨つまでもなく永遠の、幸いではわが国の眞の繁栄は望み得べくもない。今や経済大国。衣食足って礼節を知る。この辺で方向転換、創造能力を働かせて永遠の繁栄へと邁進して貰いたい。

最後に今一つ。生産を目標としない単なる思い付を発明と勘違いし、甚だしきはこれを己が生活手段に利用する所謂発明屋の多いことも困ったものである。横浜発明懇話会が発明振興会として更生発足するに当り、懇話会20年の歩みの再検討を期待する。

かくて会と会員諸賢の長寿、関係事業の繁栄、率いては日本が世界中から敬愛される経済大国に生まれ替るよう祈るのみ。合掌。

昭和56年4月7日（旧暦3月3日
桃の節句、小庭の桃花満開、1枚を
手折りて仏壇へ、亡妻に供す）

—創立20周年を迎えて—

会長 小林甲蔵

横浜市と周辺の発明家の集りとして横浜発明懇話会の20周年をここに迎えることになり、喜びにたえません。

太平洋戦争の前から戦時中、それから終戦後と、横浜にも発明家の集合がありました。なつかしい思い出、御恩になった先生、先輩方が、頭の中を往来いたします。しかし数学にうとい者ですから、記録的なことは、事務局におまかせ致しました。別文で御覧下さい。とにかく多くの人々のおちからによつて今日になりました。これからは尙更に市当局の皆様のあたたかいお心に答えて、会員皆様の協力を結集して目覚しい発展をするよう、切に祈願いたします。

発明は改革

私は革命とゆう言葉は使いたくない。改革とゆうコトバを使いたい。発明は改革だと思っている。昔から今に伝わるもの何でも保存するのがいいとする保守は大きらいである。

然し西暦1900年とゆう永い年月の間に積みかさなった人間の社会の厚い大きなしきみを私一人の小さな頭であれこれ選りわけられもせず、したら大変なマチガイをするかもしれない。しかし唯一つ迷信だけはやめたい。そこで私にできることは目に見え、手にふれ、考えられる範囲で選りわけられる、道具類、機械装置等を改革する發

明だけである。だが、発明の中にも迷信はある。迷信はやめたい。

一つの発明ができたとする。それを本当に多くの発明家が努力しておったはずである。又失敗と経験を重ねた結果である。だからこの発明一つだけが一番良いと鼻を高くしたり、なぜ認められないかとひがむのは大きな迷信である。

私は30才から現在の76才の今まで小さな発明ばかりと、もう一つ漢字の改革だけを手がけてきた。そして前半の戦前には発明協会本部と当時の市長半井先生並に発明協会横浜市部会のお世話になった。次で戦後は半井先生の後盾のお陰で横浜発明懇話会の創立に参加した。そして先輩の加藤さん、井上さんの後をついで古いだけが取りえで本会の会長におされてしまった。

私なりの過去から感じておったことは、改革である発明は、革命を本命とする労働運動、政治運動をする人たちにはウマミがない。その階層の有力者からはほとんど協力は得られないばかりか、無視されてきた。私のもう一つの仕事漢字改革も同じ運命をたどっている。

然し労働運動の目的でもある就労者の増加、収入の増加、福祉の向上、家庭生活の安定等は発明技術の進歩に基かないと言えるでしょうか。発明技術

は全方中立であります。どの方向へ歩かせるかは、関係者の熱意によってA、B、C、Dなどの方向へも向います。今までA階級の利益ばかりなっておつたと云うのは、参加の熱意のない者の片よつた見方であります。

わが発明懇話会のやりかたこそ、力不足ではあっても、正しい運動であると信じております。

この世の中から発明を全部ぬき取て

てしまえば、人類は原始に戻り、石ころと木片だけ持つてうごめいている丈でしょう。発明にも善悪はあります。それを選りわけて世のためになる発明だけを育て上げて、世に出すのが発明奨励事業であり、本会の目的であります。できるだけ多くの良識ある進歩的な皆さんに参加してこの事業を大成させて下さい。



創立20周年を迎えて

副会長 成宮庄次郎

横浜発明懇話会が結成されて本年で20年となりました。人間がこの世に生れて20年たつと成人になったとして、大人の仲間に加えられます。

20年という歳月は一人前になった転機です。その20年を横浜発明懇話会も迎えたわけです。

会員も増えました。日曜発明教室も毎回の出席者、発表件数が増加し基盤が固まったようです。

然し、役員の皆様、発表者の皆様の努力にもかかわらずこれはという素晴らしい成果は揚っていません。

21年目を迎えた今、青年が社会人の仲間入りしたと同様、横浜発明懇話会も、社会に貢献するよう益々努力しなければならないと思います。

心新たに出発するために4月から会の名称を横浜発明振興会と変えることが決定しています。振興会というのは

活動的な名称です。せっかくいい名称に変更するのですから、これからは、もっと実社会に貢献する様な発明考案品を考えて、発明教室で発表し皆さんの意見を求め、商品化の見込みがありそうな考案品はそれぞれの道に明るい方の力を借りて実現を計ることが必要だと思います。

発明教室の世話をの方々もそれぞれの知識や経験を持ち寄って皆さんのお役に立つよう務めることでしょう。

考案品が実用的に価値あるものだと皆が考えても、それを製品化し商品として店頭に並べられるまでにはいろいろと苦難があります。たとえ一品でも横浜発明振興会の教室から素晴らしい考案品を商品化し店頭に並べてみようではありませんか。

創立20周年を迎えて

副会長 川 村 秀 義

光陰矢の如し、言い古された言葉ですが、我が発明懇話会創立当初を、振り返って見ますと、昨日のことのように思われます。私くし達の年令も、若かったのでありますから、今より気力も充実しておりました時代のことと、あれこれ過去を偲び、感慨深いものがあります。何んと申しましても、当時の半井横浜市長が、無資源国で国土が狭く人口の多い我が国は、産業を発展させなければならない、特に優れた工業国を目指すには、模倣工業から、創造の工業への転換が必要である。それには発明を振興しよう、而かも気軽に話し合える、ユニークな性格の会にしようと、設立を促がされました。公務に繁忙を極められておられた大都市の市長でありましたにもかかわらず、肌理細やかな御提案は、今にして思えば誠に卓見と申すべきであります。我が発明懇話会は、かような状態から設立されました。創立当時の方々には、今は亡き方もおられますが、皆さんの努力により、お陰で基礎が固められ、年々発展して現在会員数は、当初の十倍にも達しました。省みますと、当時の横浜中小企業指導センター鈴木所長始め、所員の方々の温かい心、一之瀬事務局長の長い間陰に陽に、御尽力頂きました巧績誠に大きなものです。その頃我が国は、戦後の荒廃から、朝鮮動

乱を機に活況を呈し、我が国工業の製品、特にカメラの質の良さが、アメリカ始め世界の各国に認められ、また池田内閣の所得倍増論の政策で、国民総生産も伸びつゝある時代から、近年我が国が経済大国として認められるようになりましたのも、自動車、家電等の工業製品の発展が、主力でありますことは、御承知の通りであります。今から半世紀以前、工業材料の一部、タッピング、ドリール等の工具類、その他輸入に頼らなければならなかつた、工業後進国の時代を過した、私くし達年代の者は、今日の工業先進国としての繁栄は、想像できないことありました。内燃機関に例をとっても、50年前のガソリンエンジンの圧縮比率は、 $8 = 1$ であったものが、現在では、 $10 = 1$ となっております。又燃費の経済性から、将来ジーゼルエンジンも発展するが、我が国の技術では燃料の噴射ノズルの孔が、 0.2 耗と微小のためできない、とされておりましたが、現在は当然解決されております。これ等熱機関の熱効率を追求すると、既存のレシプロケーティグモーション（ピストンの往復運動）のものより、ロータリータイプ、或いはガスタービンに期待される、然しガスタービンの翼が薄いので熱に耐え難い、この熱に耐える金属材料が発見されれば、理想のエンジンが生れる

と講義する先生に、目を輝やかせていたものです。

これ等エンジンは現在凡て完成されました、ロータリーエンジンやガスタービンが、普及する以前にジェットエンジンが、航空機エンジンの主力を占めております。今日よりは明日と貧欲な開発追求心は、驚くばかりであります。最近我が国の自動車輸出に対して、アメリカやヨーロッパは強い抵抗を示しておりますことは、よく知られております。良く売ることはユーザーに歓迎されているからであります、その結果その国の産業界や国の経済に、大きな支障があるとの観点から起るので、今後どのような対抗手段に出るか、アメリカやヨーロッパの地力が發揮されたら、我が国にも大きな影響ができる。又将来マイコン革命が予想される等と申されております。

アメリカには高名なシリコンバレーが、マイコン革命に取り組んでおり、川崎市も本年に入って、シリコンセンターの宣言を致しました。何やら妖気が漂っているような気配です。今後一層知恵、知識の戦かいが熾烈となるのではないでしょうか。横浜発明懇話会も、新年度より、横浜発明振興会と改称されます。会員御一同様の益々の御奮斗御期待申し上げます。

創立20周年記念行事

1. 記念式典

昭和56年1月13日(火)晴天に恵まれ、役員ならびに会員の方々の絶大なご協力を得、式典に先だって開かれた臨時総会に引き続き定刻午後1時30分、来賓に飯島横浜市助役、半井元市長、関口経済局長ほか市関係者、北岡発明団体連合会常務理事、小菅発明協会県支部事務局長、関川崎発明促進会々長、海沼日刊工業新聞神奈川支社長高橋読売新聞記者をはじめ顧問、役員および会員68名(来賓18名)出席のもとに、横浜郵便貯金会館高砂の間において盛大に挙行された。

成宮副会長の開式のことばで始まり小林会長のあいさつがあり、続いて、10年以上の役員に市長より感謝状並びに記念品贈呈、永年役員及び弁理士に会長より感謝状並びに記念品贈呈、10年以上的会員に感謝状の贈呈が行われた。

次に、飯島助役より横浜市長の祝辞半井元市長から祝辞をいただき式典を終了した。(司会三橋・山田理事)

感謝状を受けた方々は次のとおりです。

- (1) 市長より感謝状並びに記念品を受けた方
(10年以上役員として会運営に尽力された方)

小林甲蔵 詠 薫
成宮庄次郎 太田恒次郎

川村秀義 稲田保
石黒安之助 三橋良夫
進藤健造 山崎一男
佐藤正美 以上11名

(2) 会長より感謝状並びに記念品を受けた方
①永年役員として会運営に尽力された方

鈴木洋二 木藤素光
石井一市 小泉恵三郎
山田勇 北川隆三
富田仙之助 以上7名

②発明相談指導に尽力された方
木脇不美男(顧問・弁理士)
③日曜発明教室の運営に尽力された方

堀田健蔵(会員・弁理士)
大貫和保(会員・弁理士)
④10年以上会員として会運営に協力された方

株飯島製作所 株相模商会
株山口製作所 ニッポー株
株岡村製作所 サーン株
日亜機械工業株 (資)石川精機製作所

東邦印刷株 日新製鎖工業株
(有)横浜合金型铸造所
和泉産業株 株山装

株富田鉄工所 株大井製作所
横浜滅菌工業(有) 株NK製作所
ヨシケ科研機器株

サントゴ 高見沢工機株
(有)玉置電機製作所 日本自動精機株
富士鉄工株 株三晃製作所
神中ダイカスト工業株

田中実 内田昌三

柴山淳彦 寺本貞久
細野長寿 渡辺正信
岡本覚 川崎信藏
横谷四郎 坪井治郎
佐々木哲 佐々木茂
大川功 角井郁夫
鳥居豊 梅田浩司
佐藤寛 佐久間盛郎
筒井孝輔 山口照雄
相川宗八 石井伊助
堀田健蔵 吉原正治
笠岡義人 田中丑松
浜田弥市 矢島克己
高木盛家 岸川静男
綱桃三 吉沢伸也
藤崎元 三宅達也
倉本幸夫 尾崎勝敏
小宮久一 稲田保
川村秀義 太田恒次郎
鈴木洋二 三橋良夫
山崎一男 詠薰
(以上25社・44名)

2. 記念講演

式典に引続いて発明学会々長豊沢豊雄氏から「81 今年あなたがねらえる発明の穴場」と題する記念講演が行われた。

(講演要旨)

科学技術の進歩などで、世の中の複雑さが強まるとともに“不快情緒”も増すのがこれからの中社会。

男女別や年令などにこだわらないで、より多くの人が楽しむ発明に取り組むことが、社会を明るくすることになる

のではないか。

野球と同じで、空振りや失敗がたとえあっても、練習に励むのが発明成功の道。これこそと思うテーマが浮んだら、徹底して掘り下げる事が大切といろいろな方の例を話されました。

3. 記念写真撮影

記念講演終了後3階写真室に移動していただき出席者全員で記念写真撮影を行った。

最近は、結婚式のときぐらいで大勢そろった記念撮影はしていませんが、年数がたつとなつかしい姿がしのばれ価値が出て来ます。

本会では、創立5周年のときに写しましたが、創立総会のときに写さなかったのが今になってくやまれてますので、皆様には大変でしたが、3階まで移動していただきました。

写っている70名の方々全員におくばりいたしました。

4. 祝賀パーティー

会場を福寿の間に移し祝賀パーティーを行った。

まず、横浜市経済局商工部長大木敏一氏のお祝いの言葉で始まり、創立総会の際「模倣と独創」と題して記念講演をしていただき、それ以来顧問をお願いしている中本守氏の音頭で乾杯、パーティーが開かれた。

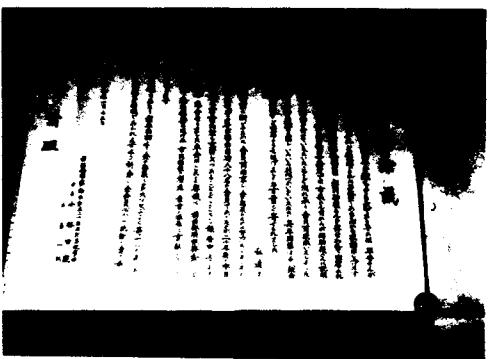
懇談の間に、発明団体連合会、発明協会県支部、川崎発明促進会各団体の来賓の方から祝辞が寄せられ、碓井貢

指導センター所長の挨拶があった。

創立当初からの会員の方、最近会員になられた方、4名のご婦人、来賓の方々をまじえ、発明を中心とした歓談が続けられたが、定刻午後5時になつたので副会長川村秀義氏の閉会のことばで、名残を惜しみつつ解散した。

5. 半井清氏(名誉会員・元横浜市長)に感謝決議文を贈る。

創立20周年記念事業計画委員会において、本会創立者である半井清氏に対し、感謝の意を表する方法について検討を重ねた結果、祝賀会開催前に臨時総会を開き、佐藤理事が感謝決議文案を提案し全会員一致の感謝決議をすることになり、会名変更と同時に決定された。



本日、横浜発明懇話会が創立20周年を迎えることができるのは、半井さんが横浜市長在職当時に設立を提唱され、ご援助下されたお陰であると心から感謝申し上げます。

昭和36年の丁度本日行われた発会式には、船引助役さんをともなわれて

出席され、祝辞を賜り、その後に行われた予算査定では市長さん自から両助役さんに説明され、設立頭初から補助金をつけていただいたことを洩れ受賜り、会員一同感激いたしました。

市長退職後も、本会の運営に関し、いろいろとお心づかいをいただき、毎年開催する総会、新春懇親会には必ず出席されはげましのお言葉を賜りました。

私達は、半井さんのご厚情に酬いるために、会員一同結束し、会の発展のために努力いたしてまいりました。

その歩みは遅々と致しておりますが、発会当時88名の会員であったのが本日、222名となり事業内容も充実しつゝあることをご報告申し上げます。

創立20周年、成人となりました本会は、これを契機に「横浜発明振興会」と改称し、更に発明振興にはげみ、市民福祉の増進、発明振作に貢献したいと考えております。

創立20周年にあたり、創立当初より会の発展に多大な尽力を寄せられました半井さんが益々御健在であられますよう祈念し、全会員心から感謝の意を表します。

昭和56年1月13日

横浜発明懇話会創立20周年

記念祝賀会

会長 小林 甲 藏

会員 一 同

以上の感謝決議文を写真のように清書し、小林会長病気のため、成宮副会長、川村副会長のお二人が会を代表し

て、1月30日半井さんにお渡しいたしました。

6. 記念品

半井清氏の署名、本会マーク入りの手拭を注染し、来賓、関係者及び全会員にお配りした。

—準 備 —

創立20周年記念事業計画委員会

第1回 55-7-23 14:00~17:00

中小企業指導センター会議室
出席委員15名

第2回 55-10-23 14:00~17:00

中小企業指導センター会議室
出席委員13名

第3回 55-12-9 14:00~17:00

中小企業指導センター会議室
出席委員16名

—記 錄 —

1. 記念祝賀会ビデオテープ撮影

株 ゾナー 稲田保氏寄贈

撮影協力 セオクレーン株
齊藤 一洋 氏

2. 8%記録映画撮影

中小企業指導センター

相沢 武志 氏

3. 35%写真撮影、テープ録音

事務局

創立20周年にあたり会員寄稿

鈴木洋二

横浜発明懇話会の新しい使命

日本の自動車の欧米への輸出が毎年増加し、今や政治問題化するに至った。その原因は欧米の消費者の日本車を買った方が得だということで日本車が売れているからである。資源のない日本は世界の人々からよろこばれる製品をつくり、日本製を買った方が得だということにならない限り日本の輸出は伸びなくなる。輸出が伸びない限り資源を輸入することはできない。日本製が得だという製品をつくり出すには生産分野での、発明工夫がない限り実現できない。これから日本の経済の将来をささえるものは、発明工夫を基盤とした製品を世界に供給することでありこれによって日本経済の発展は期待される。発明工夫こそ、日本の将来に大きな役割をはたす原動力となるのである。ところが今までの発明懇話会の発明内容は、台所用品の改善、名札の工夫、ボールペンの改善等といった、生活の知恵的な工夫考案が多くあった。これでは発明考案そのものが産業分野に貢献しない。これからは発明にとりくんでいる発明懇話会の活動分野を更に広め、生産分野に及ぼしてゆく努力をすることが大きな使命となってきた。特に中小企業の工場では生産工程において色々と生産方式を改善しようと思っても発明考案を担当する人材はなく、又時間的余裕もないのが普通である。1日

5,000ヶの部品を製造している工場で注文が10,000ヶに増えたとしても人を増し、設備を増設する余地もなく、仕事に追われ放しというのが多い。経営者として何とか今の設備を改善し3人でやっている仕事を2人か1人にして2倍3倍の生産をあげられるようにしたいがそんな設備は売っていない、止むなく無理をしている。この様な時に我々発明懇話会で、この問題を取り上げ、生産設備の改善に取り組みその会社独特の設備をつくり、すばらしい部品が生産され、世界市場に輸出されてゆくとしたならば発明懇話会が日本経済に多大の貢献をすることになる。

発明懇話会を産業界の生産部門と直結し生産分野の発明考案に力を入れることが今後の発明懇話会の新しい使命としたいものである。



富も文化も発明がつくる

試 行 錯 誤

株サンゴ 佐 藤 正 美

発明的な製品開発に成功しても市場開発が伴わないと折角の苦労も実らない実例をあげてみたい。これは割卵機開発の経過である。

畜産関係の仕事を通じて自動で洗卵、割卵、黄・白味分離機能を供えた一連の自動装置の開発にふみきった。玉子の形状は千差万別、鮮度、黄味軟弱度合、カラの硬度不一定とあげればきりがないほど扱いにくい生き物である。関係各位の絶大な協力を得て約3年の歳月を経て一応の完成をみた。研究の段階で特許・実用新案を含めて10数件の外、国外特許も確定した。また一方発明展で特許庁長官賞、更にNHKテレビ放送、読売新聞の記事として大きく取り上げる等、開発当事者を有頂天にさせた。だからといって売れるということとは別であることをいやといふほど知らされた。使用分野に製菓業界を対照として市場調査の結果、全国10万余社の中、割卵機の使用見込を50人以上の規模と推定したところ、その数約1万社、即ち1万台の需要予測が考えられたので量産開始にふみきることとした。当初はNHKテレビ、読売新聞等の紹介で特に宣伝広告せずして各地より現金を持って買いにくる正に有卦にはいった感であった。

しかし時を経るに従い500台出荷あたりから頭打ちの徵候となってきた。

その後あらゆる拡販活動と機械の性能アップに努力を傾けたがその効果がないので食品機械業界の意見をきいたところこの業界では100台売れたならヒット商品との認識であった。500台以上も卖れたのなら成功の部類だときかされた。これは製品開発には成功でも経営上では余りメリットにならない結果である。

開発には貴重な、ヒト、モノ、カネを投入し、日夜玉子に没頭し夜中も玉子が夢に浮ぶ日常であり、実験での割卵で液卵飛散で衣服はこわばり、また食堂では卵料理の連続で閉口される状態であった。一方販路開拓に全国巡回等の苦労は筆舌につくせぬ試行錯誤の連続であるがその結果から得た貴重な教訓も大である。開発テーマの選択を誤ってはならないこと、大切な時間、ヒト、モノ、カネがかゝるのだから充分にその結果を生むテーマの選択がきめてとなろう。

景気後退とか低成長時代とかいわれる今日だが、これは耐久消費材の開発が一巡したことによる原因があろう。経営諸調査の項目の1、2の上位に商品開発、技術開発をあげていることでも、企業の将来を快する大きなテーマと重視している所であろう。

しかしこれだけ発達すると次の発展は中々簡単に生れにくい。常にアンテ

ナを張りめぐらし有効なテーマをつかまなければならない。それは前述の割卵機を通じての生きた体験、試行錯誤の中から得たかけがえのない教訓である。人間の暮らしをよりよき未来へ進歩



「年の瀬」のたびに思はせられること

山崎一男

50才も過ぎると、年の終りごろになるたびに思い知らされるのは、1年という時間がだんだん早くすぎるということです。

今年はサラリーマン生活をやめて、この4月から生れてはじめて失業保険金を貰う身となったが、この早すぎるという感じは今年も変わらない。

私のような70才になろうとする者にとっては残りの年数が少なくなつたうえに1年があっけなくすぎるようになってみると、何かとぼしくなつた財布の残りの千円札が1枚1枚へって行くときのような心細さを感じます。

人間の寿命はせいぜい永生きしても70年か80年だということはまだ私が青年であったころからわかっていたことですが、その時分には1年が永くひどくゆっくりたつように思えたので実感としては、人生はまだまだ永く行くに遠くある気がしていたものです。

昔、二葉亭という人が平凡という題で、もう10年早く気がついたらとは誰しも思うところだろうが、皆判で押したように10年おくれて気がつく、と書いています。

亦青年には、どんなに想像力が発達

向上してゆくためには尙多くのことが必要であり、それを簡明に表すのが発明であろう。発懇20周年を機に心を新たにして更に希望と期待とを秘めて創造に前進しよう。

していても決して理解できないことがある、それは人生の短かさだ、といった人もいます。

人生は短かく光陰は矢の如しとか、日暮れて道遠く人生は二度とやりなおしきれないなどという先人たちの教えは、私は今から半世紀もまえからなんども聞かされたりして知っていたことですが、それが切実に身にしみて思い知らされるためには今の年令になるまで待たねばならなかつたとは人間の心もずいぶん不完全にできているとしか思えません。

人類はじまって以来幾世代、無数の大多数人たちが繰りかえして来たやはりこれはさけることのできない誤ちとでもいべきもので人間の弱さであり本性でありいち面の眞実の姿だといってよいものだと思うのです。

私の父は昭和27年に数えの85才で亡くなつたのですが、その当座は年に不足はないしできるだけのことはしてあげられたのだからなどと今から思うといい気になつていたわけですが、だんだん年をとるにつれて晩年の父に対する配慮のたりなかつたことに悔ることが多い。

C型鋼の誕生

太田 恒次郎

今から50年も前のことである。私は18才位の小僧で家業の手伝いをしていた。家は建築金物全般と鋼構物工事の請負をしていた。まだ当時は地方問屋として立派に成り立つ頃で店は可成り繁昌していて忙しかった。芝の頃のことである。客種は殆んど職人衆が多い中に、或る日キッチンとした背広姿の紳士が現われた。店の古い番頭さんと何か図面らしいものを広げていろいろ話をしているがどうも埒があかない様子なので私が首を突っこんだ。図面を見るとどうも学校でボート部の連中がよく使っている練習台（木製）のように見えた。私は恐る恐る尋ねてみると其の紳士は即座に「其の通り！」と答え我が意を得たとばかりにニッコリした。現在で云えば何んのこともないリップ付C型鋼のフレームである。しかし当時はそんな型鋼は見たこともない。これが、ナルトスポーツの岡さんはいろいろ新しいスポーツ用具を輸入されて其の普及につとめておられた。（確かバドミントン等も横浜へ初めて普及されたのではないかと思う）この練習台も英国から見本として輸入されたもので、会社へ来て是非現品を見てほしい、そして出来るものなら製作を頼みたいと云う。私は番頭さんの不審顔を外目に直ちに快諾した。其の点は店の損得など構いなしの馬鹿旦那であつた。

当時店の下請工場に故人になったがHと云う男がいた。彼は新橋で提灯をつけっぱなしにして客待ちをしている車夫を見て、ともるろうそくが何んとか其の場で再生出来る器具は出来ないものかと夢中になり立派な職人の腕を持ち乍ら遂々其の器具の完成をみず失敗に終り、一家を貧窮の底に落としてしまった。其の後店の下請となり生來の器用さで未だアメリカからサッシバーの輸入もない頃、完全なスチールサッシを作ったりした男であった。其のHに私は相談した。初は店の馬鹿旦那の道楽位に思っていた彼も現物を見て段々興味を持ってきた。そして彼は其の製品の目途とは異り「この型鋼は将来立派な建築資材になる」と言い放つた。なる哉、彼の言い当てた通り、50年後の今日、C型鋼は正に建築資材のホープである。さて、当時は製作するにしても高度な機械があるわけではない、せいぜい、400k位のハンドプレスがある位のものである。だが彼は数日して独特の手業技術で見事な長尺のリップ付C型鋼を作り上げたのである。正に日本で初めてのC型鋼の誕生と言えると信じている。勿論岡さん要望の製品も出来て納入した。しかし悲しいことに量産が不可能なので其の後5台程作った切りで終ってしまった。だがこれが御縁で岡さんの会社から針、鉢、木捻など細かいものを沢山買って頂いて長く取引が続いたことを覚えている。

後年岡さんは御自分の開発されたスキー用具をオートバイ屋か楽器屋だかの大企業に盗用されてスカイビルで新聞記者なども呼んで、抗議集会を開かれたことがある。盗用会社、全国で9

社、年商50数億とか、然も彼等は反対に岡さんをおどしにかけるなど法治国家に居て全てサカサマな目にあわれ、苦労されたと聞いた。私も粉飾決算と社長の背任行為で盛名を馳せたFアルミサッシに同様の目にあったので其のお気持がよく判った。ともあれ現在は岡さんの御健在を祈るばかりである。



発明方法の型

エジソン型発明と豊田型発明

発明の進め方には二つの型がある。日常の生活や仕事の中から、フト浮かんだアイデアにヒントを得て研究開発をするものと、最初から開発の題目をきめてその題目に向って研究してゆく型のものである。

前者は、アイデアマンといわれる街の発明家が取り組んでいる型で、エジソン型の部類であり、後者は、企業の研究者が会社の方針に従って行っている発明で、豊田佐吉型といわれるものである。

エジソンは、電信機から映画・蓄音器・航空機・合成化学まで手がけ、19世紀後半から20世紀初頭にかけての主要な技術上の問題で、エジソンが関係しないものはない程の発明家であり、生涯に1300をこえる特許を取っている。

一方豊田佐吉は、母が機織に苦労しているのを見て織機の改良に志ざし、力織機から自動織機まで、織機ひとつずじに84件の特許を取って世界的な発

三橋 良夫

明家になったもので、発明への取り組みはエジソンとは違う型である。

日曜発明教室の作品

横浜日曜発明教室で発表する発明者にも、色々なものを次々と発表するエジソン型と、同じ系統のものを深く掘り下げて研究発表する豊田型の人がある。

会員の桑井旭さんのように、長い間色々なものを手がけて発明しているうちに、発明教室で発表した「風呂釜洗浄用具」が製品化されてヒットし、ロイヤルティーで笑いが止まらないというエジソン型の人もある。

また豊田型の人としては、マッチ博士といわれる筒井さんのように、宣伝マッチに関する発明考案を数多く行い、これを権利化してロイヤルティーに結びつける人もいる。

私の発明

私が趣味として発明考案を始めてからすでに30年になる。最初に考えたものは「証票」（宝くじ）で、実用新案はとったが実施化は出来なかった。

20年の歩み

それから、ポイラー、ロールペーパー、自動止水装置、灰皿、碁盤、無キヤップ万年筆、電話早見器、家計簿、ホッキス等々、アイデアが浮かぶまさに、次々と研究をしていった。

そのうちに、無キヤップ型万年筆や、電話早見器の権利が売れたため、研究の主題は、だんだんと文具に移っていました。この部問は日常使っているので研究しやすいのと、試作に費用と手間がかからないためである。

文具関係を始めてから開発した、予備針入のホッキスの権利は、譲渡しないで実施契約にしてロイヤルティーを貰うこととした。

これがもとで、次々とホッキスの研究開発を行い、パンチができるホッキスの「パンチキス」に発展し、外国特許も取り、ついに自分で製造販売するような羽目?になってしまった。

製造から販売までやるようになると、時間的な余裕もなくなり、今ではパンチキスの開発が専門になっている。エ

ジソン型から豊田型になったわけである。

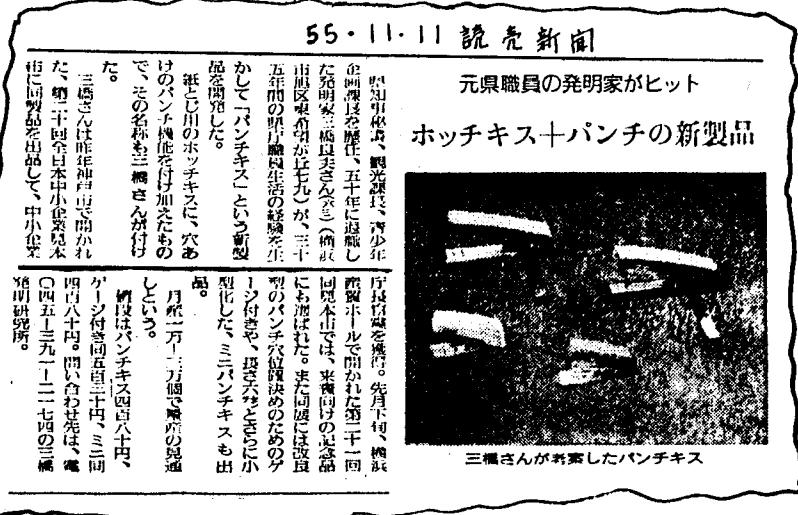
なんでも発明か 専門発明か

発明の型といつても、初めからどちらの型にきつたものでなく、出発点ではエジソン型で、途中から豊田型になる人や、豊田型からエンジン型に変る人もある。

しかし、一般に「街の発明家」といわれる人は、私のように色々なものを手がけて試行錯誤を繰り返し、その段階で工業所有権や製品の品質製法などを勉強し、やがて専門化するのではないかと思われる。

永い間なんでも研究すると、調査の仕方や発想のコツなどもなれてくるので、専門研究をやるようになっても、かつての研究が非常に役にたち、自分の発明ばかりでなく、他社からの相談にも応じて喜ばれることもある。

いずれの型にしても、発明とは夢があつたのしいものである。



1はじめに

横浜市は産業振興政策の一環として昭和の始めに商工課内に発明協会横浜支部を設けた。昭和18年に支部を県に移管したので、横浜は新に市部会として発明振興活動を続けた。

本会が生まれたのはこうした歴史と土壤があったからです。

しかし、これらの資料は全く残っていないが幸いにして支部を担当していた松本栄吉さん（昭和56年1月90才で逝去）、市部会を担当していた安藤正美さん等から折にふれてうかがつた話をまとめ、更に発明協会70年史等から抜萃した資料を5年の歩み、15周年記念ニュース特集号に掲載いたしました。

20年の歩み編集にあたり、一つにまとめて皆様の参考に供したいと思います。

2会の生まれた土壤

(1)発明協会横浜支部設立

関東大震災により市内のほとんどが遺滅状態におちいりました。震災による打撃と輸出商の多くが神戸に移転したことにより、横浜は貿易面でも重大な時期を迎えたが切実な問題

となつた。

工業振興政策として、横浜市では、大正13年と昭和2年の2回にわたって輸出商品見本市を開催した。

松本栄吉さんは市の職員として働き、その時の記念メダルを持っていた。出品された商品の中で市内で製造されたのは文需堂の手帳だけだったとのこと、その後商工行政の一環として発明奨励事業をとりあげ、発明協会と折衝し、全国で7番目の支部を商工課に置いた。

現在の行政区画では考えられないことですが、市の職員が事務局を担当し全県下を対象に事業を行った。

当時始めたトーキー映写機を持ち、小田原、横須賀、川崎へと出掛けたこともあったそうです。

発会式はどこで行ったか聞き洩らしましたが、100名近くの者が集まり、当時発明されたばかりの合成酒を記念品として配ったとのことです。

創立 昭和2年9月23日

支部長	初代	横浜市長有吉忠一	s 2.9
	2代	〃	大西一郎 s 6.3
	3代	〃	青木周三 s 10.8
	4代	〃	半井 清 s 16.2

(2) 発明協会神奈川県支部

横浜市部会設立

長い間各県の知事を歴任されていた半井さんが横浜市長になられたのは、昭和16年2月からでした。

横浜市の発明奨励事業を更に強化するため、近藤知事と話し合い昭和18年9月支部を神奈川県へ移管した。

横浜市には、安藤正美氏（特別会員）を東京より招聘し、発明協会神奈川県支部横浜市部会を9月末創設し活動を開始した。

後から知ったことですが、支部の中に市部会を創ることは全国的にもまれなことで、安藤さんの顔で発明協会本部が認めたとのことでした。

当時支部に対する横浜市の補助金は670円であったが、市部会創設にともない追加予算により1万円が交付され、更に2ヶ月後には10万円が追加された。

11万円という金額は当時の産業部予算の中でも相当なウエイトを占め、半井市長の力の入れようがうかがわれる。

小林さんのお話では、市長公舎に当時発明協会総裁であった高松宮殿下をお招きしその御前で小林さんを始め幾人かの発明品の実演を行い、発明意欲の向上をはかるなどされました。

やがて、終戦となり戦後の混乱期を迎えたが、この形態は続けられた。

昭和23年戦後の復興をかけて開催された日本貿易博覧会には野毛山の第1、第2科学発明館と天文館の3館の

企画運営をまかされた。

日本一の反射望遠鏡を設置した天文館は俄然この博覧会で第1の呼びものとなった。

第2科学発明館は、当時未だ研究段階にあったテレビジョンを接渉に苦心の結果日本ピクターKKから出品してもらうことに成功し、日本人はもとより、駐留米軍人達を驚かせるなど、市部会の総力を上げて協力した。

しかし、昭和25年占領軍命令により赤字都市であった横浜市がこうした団体への補助金支出はまかりならんということで打切りとなってしまった。

そこで当時の責任者であった安藤さんを始め職員は市職員となり、発明相談、発明試作助成金交付、発明展覧会その他市部会が行っていた事業のすべてが横浜市の直接事業に切り替えられた。

その後、横浜市部会の再興を度々計画したが、担当者の転任などで折し、市内の発明家が気軽に意見を交換する機会がなくなっていた。



発明は地位や年令に関係しない

3 会の生まれるまで

(1) 発起人会

昭和34年半井清氏が再び市長に就任されるに及び横浜支部会は今どうなっているか、再興は出来ないかとの諸問題が経済局商工課指導係にありました。

当時指導係長であった鈴木洋二氏が発明協会本部に意向を打診に行ったところ、支部の下に市部会を設けるなどは認めない方針であるとの答があったので、市長にその旨報告した。

その後、小林甲蔵氏が来所され、市長から、市部会の再興はむずかしいので、これにかわる市長が気軽に出席できる発明の会を小林氏が発起人となって創ったらどうかと言われた。

しかし我々市民ではどうしようもないでの、指導係で事務を担当してほしいと申入れがありました。

市部会当時活動された有志の方々の積極的なご努力により次のような経過をたどり発会しました。

昭和34年 有志数名が横浜工業館にて

12月 集まり会設立について協議。

昭和35年 横浜工業館において発起

1月14日 人会開催

午後2時 規約の審議、会員募集方法、発会について協議した。

出席者 天野修一・井上太保・遠藤正吉・加藤清右衛門・川村秀義・小林

甲蔵・大八木光治・富田仙三郎

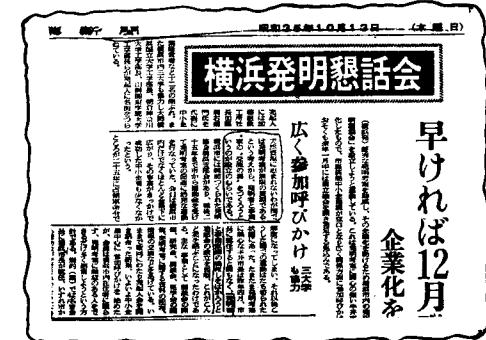
昭和35年 2月15日 横浜工業館において第2回発起人懇談会開催。

午後3時 会の性格について。市内各大学工学部長を顧問とする件。会費について。発起人代表を加藤清右衛門氏と決定。

出席者 加藤清右衛門・井上太保・遠藤正吉・小林甲蔵・大八木光治・川村秀義。

昭和35年 9月末 発起人・顧問等の依頼、規約案、趣意書の印刷等会員募集の諸準備が完了したので市内の発明者、事業者等に発送し申し込受付を開始した。

昭和35年 10月 日刊工業新聞の協力により東京版に記事がのつたので市外よりの申込もあり、11月末現在で、法人37社、個人43名計80名の申込が集まった。



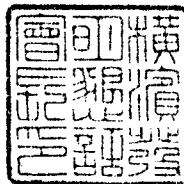
昭和35年 横浜クラブにおいて発起
12月19日 人会開催。
2時 規約の一部改正。創立総
会、役員、総会の運営、
記念パーティー等につい
て協議。
出席者 加藤清右衛門・
井上太保・小林甲蔵・遠
藤正吉・富田仙三郎

(2) 會名余聞

発明の会を発会するにあたって、名称をどうするかが論議された。

たまたま古い印箱の中に横濱發明懇話會というゴム印と会長印とがあったのでこれを活用したらどうかと提案したらすんなり採択された。

橫濱發明懇話會



何故この印が在るのか深く調べる余裕がなかったが、その後安藤さんよりうかがったところでは、戦後の混亂期に横浜支部会の中に自主的な集まりとして懇話会が生まれ会長に半井さんが選ばれたが、半井さんがパーティになり、ご迷惑が掛ってはいけないということ

で会長を加藤清右衛門さんに変更した。せっかく盛上った会もこのことで頓座してしまい活動されずに終り、印だけ残ったとのこと、はからずも、本会創立発起人として集まった方々は、当時の主だったメンバーであった。

新嘉坡明德書院藏本
新嘉坡市內西已業華打三一八
中都園村本打
內佛羅伊烏加打八人
港業巴日奇打白打
碑子已中不打
保羅里呈打三五
戶家已聯公所柏次打
鈎邑已連毛花次打
神余川邑打西打
西都打七打島打
打一打西打
打一打九打

某內狀
拜啓近道
陳者邑中事十方日準備會稽舉行社帳
稽明照者，後各方會，而後復一月，健
全之生，貴致居候，現約三月，第一回會
計左記三十日，因當社帳同印，出席被下復地經
而業內申上候，追而故辰石記，並多金幹，申
報，却委在中止，請問之，至馬一橋，據
曰時昭和二十一年十月十五日（第三主祀）午前時
場所指派市、高乙之公私印
詔題
證明者二何承天牛力
②證明者八堺明者二何承天牛力
横濱市西邑老松山三室田畠櫻井新田
横濱發明者八堺明者二何承天牛力
會

昭和52年7月小林さんが、自宅の土地に関する書類を調べているうちに同じ箱の中から上記の書類が見つかったと持参されました。

これによると、安藤さんのお話しそうに、帝国発明協会横浜市部会内に

横浜発明懇話会が設けられたこと、そのスタートは、昭和21年5月16日準備会、同6月15日幹事会が開催されたことがわかります。

攝演發明懸詔會徵賞名錄
(西曆一千九百零六年七月十日改選)

この名簿では昭和23年7月10日に総会が開かれ役員改選が行われ、会長に加藤清右衛門氏が新任され、半井市長は顧問に新任されており、横浜発明懇話会があったことが裏付けられます。（ニュース44号52年8月掲載）

(3) 会の性格についての検討

半井市長の意向は、市長が気軽に出席できる会ということ。

商工課指導係は中小企業の診断指導と、市部会から引継いだ発明奨励事業を行っていた。

横浜市内の中小企業の大半が、造船、電機、自動車等の下請工場なので不景気になると生産調節され経営は苦しくなる。多くの経営者は自社製品を持ち親企業に振り回されることのない独立企業になりたい念願を持っていた。

一方、発明相談や発明試作助成金交付申請をする者は個人が多く、折角よいアイデアを持ちながら生産手段や資金がないため埋もれてしまうものが多くなった。

相談に来た者のアイデアが企業化出来そうなので企業に紹介すると、企業側は役所の紹介だから会うことは会うがそれから先の話は進まない。それはお互に利害の関係することを、どんな人だか、どんな企業だかわからずに進められないからです。

そこでこの会は、法人会員と個人会員とにし、事業を通じて両者の人間関

係を深め、アイデアの交流を自然のうちに行えるような会とする。

こういう提案を発起人会に提案し、検討した結果、次の趣意書となつた。

趣 意 書

科学技術の振興は国家繁栄の基本的要因であることは申すまでもありません。

国土狭隘にして人口過剰、然も天然資源の乏しい我が國において頭脳的所産である発明考案は無限の資源といふべきで、これが開拓は誠に重要であります。

然しながら発明を企業化し、商品として世に出すためには長年に亘る技術的研究と多額の資金を要するため幾多の困難がともなるものであることは、御承知のとおりであります。

したがつて発明者の多くは経済的に恵まれず孤独の環境にあり、発明者間の連絡はもとより事業者との関連もない状態で優秀なアイデアもいたずらに休眠していることが多いのが実情であります。

又事業者の多くは優秀な自家製品を持つことが企業繁栄の鍵であることを自覚して日夜努力して居ることと存じますがなかなか新しいアイデアを生み出すことは困難であります。

このたびこの両者の交流をはかる機会を作るため横浜発明懇話会（仮称）を組織し、相互の親睦をはかり、科学技術の研究にはげみ、優秀な発明品の創造と企業化の途を開き、産業の振興輸出の増進に寄与いたしたいと存じます。

この趣旨に御賛同下され入会されるようお願い致します。

昭和三十五年一〇月一日

発 起 人（順不同）

加藤 清右衛門（株式会社加藤組株工所社長）
小林 甲蔵（横浜鐵工所有限会社社長）
天野 修一（天野特種機械株式会社社長）
井上 太保（日邦器械工業株式会社社長）
遠藤 正吉（高進工業株式会社社長）
川村 秀義（トーホー精機株式会社社長）
大島 竹一（大島工業株式会社社長）
宮田 仙三郎（株式会社富田鉄工所社長）
大岡 実（横浜鋼大工学部長）
朝倉 希一（神奈川大学工学部長）
山根 雅信（関東学院大学工学部長）
大内 幸司（横浜市経済局長）

4 創立総会

昭和三十六年一月十三日午後1時30分より、横浜開港記念会館において、半井市長、船引助役、阿久沢日刊工業支社長、朝倉神奈川大学工学部長諸氏の臨席を得、会員60名の出席のもとに創立総会を開催した。



うかがい大いに感銘を受けた。（録音テープ保存。生産性神奈川第16号に掲載）午後4時30分富田仙三郎氏の閉会のことばにより創立総会は終了し、引継ぎ別室において、祝賀パーティーが開かれ午後5時30分盛大裡に閉会した。

役 員

名誉会長	井藤 清右衛門	清
会長	加井 保藏	右
理事	上林 吉義	門
	甲	太
	正	正
	秀	保
	仙	藏
	治	吉
	泰	義
	孝	郎
	竹	夫
	秀	作
監事	大松 一利	一
	内島 波	利
顧問	天岩 修	一
	朝倉 高希	雄
	中木 信雅	信
	木腕 不美男	守

司会川村秀義氏により進行され、遠藤正吉氏の開会のことばで始まり、議長には井上太保氏が選出され、経過報告を小林甲蔵氏、規約案の説明を事務局鈴木洋二氏、役員選出については議長に一任された。その結果、発起人代表の加藤清右衛門氏が会長となり、発起人のうち3大学工学部長、天野修一氏は顧問となり他の方々は全員理事に選出された。

議事終了後加藤会長の挨拶、半井市長、阿久沢日刊工業支社長両氏の祝辞があった。その後で工学院大学教授中本守先生の記念講演「模倣と独創」を



5. 20年間の活動状況

(1) 事業の実績

1 発明奨励普及事業

◎日曜発明教室を開設

昭和42年始め、会員及び理事の詠さんから東京日曜発明学校の出席者をしらべてみると横浜・川崎方面からの出席者が相当数あるので、横浜でも開催したらどうかとの提案があった。

東京日曜発明学校の開催内容について調査してみると、発明者にとって良いことだが、毎月定例的に不特定の人を横浜で集めることは大変なことだと感じた。

東京の場合、発明学会がバックアップし、運営は発明研究会が行っている。横浜で開催するとすればすべて事務局がやらなければならない、これは大変な負担だ、会員の方々には申し訳ないがこんな考えが発足を遅らせました。

しかし、提案した方々の熱意により会の事業としてとり上げ、役員、会員大勢の方々の協力により、昭和43年9月8日からスタートすることができた。



○昭和42年8月23日 理事会を開催、(1)会場の選定、(2)東京と異なった特色を出す、(3)実施のための組織、(4)実施時期について研究。

○昭和43年5月16日、総会に於て事業計画承認

○昭和43年7月17日 理事・世話人会。

実施にあたり会員中より世話人を募集したところ5名の方から申し出があり、理事と合同で(1)実施要綱、(2)実施の具体的方法、(3)役員を決定。

世話人代表 加藤 会長	
実施委員長 詠 理事	
世話人 理事 全員	
・ 山田 儀一	
・ 堀田 健蔵	
・ 三原 正雄	
・ 進藤 健造	
・ 山崎 一男	

○開催PR

実施要綱、作品発表申込用紙を印刷会員・東京参加者・発明相談来所者等に750通発送 8/15
センターニュース 8月10日号
神奈川新聞・日刊工業新聞・読売新聞8/20掲載・市民広報9/1掲載。

○横浜市・発明協会県支部・日刊工業新聞・発明学会の後援承認

○弁理士(会員)の方々の協力依頼
木脇不美男・釣本義男・岡本覚・堀田健蔵・大貫和保

○昭和43年9月5日 第2回世話人会。

第1回目の役員分担・会計は別とし会計係小林甲蔵氏と決定。

○開催日

東京が第1・第3なのでカチ合わないよう毎月第2日曜日午後1時~5時までとし、今日まで会場の都合で3回変更した以外はこの方針をつらぬいている。

○名称について

東京が日曜発明学校となっているので同じ名称では申し訳ないと考えから、横浜日曜発明教室とした。

この遠慮がかえってわざわいし、発明学会の協力が当初得られなかつた。その後横浜日曜発明学校と呼称するのもよく、折を見て改名もやぶさかでないことになった。

○実施内容

- (1) アイデアの発表とディスカッション(投票で優秀賞贈呈)
- (2) 発明相談 弁理士
- (3) 実施化指導 役員
- (4) 研究会、講習会

[コメント]

開催までのことを詳細に書きました。長い間には忘れられることが多いので念のため、又当時の会として力の入れかたを知っていただくためです。

= 実績 =

○会場

横浜開港記念会館	第1回・第2回
神奈川県中小企業会館	第3回~第91回
	(7年4ヶ月)
横浜朝日会館	第92回~
会議室	第151回

毎回終了後世話人会を開き反省と次の検討をしている。

出席者に少しでも足の便のよいところということで3回目から桜木町に近い、神奈川県中小企業会館に変更した。

一年を通して、第2日曜日に予約をすることは当初困難であった。

しかし、出席する会員の態度・役員の方々の努力による後かたづけ等、他の団体と比べ非常によいことが会館側に好感を与え、7年4ヶ月の長い間お世話になりました。

(第2日曜日どうしても使用できなか

ったのは、第8回、第32回、第33回のみであった)

会員の方々には便利であったが、事務局は大変で、早やめに出勤し、開設に必要な器材を持ち、タクシーを拾つて会場へ誰よりも早く着かなければならぬ。

日曜日の日本大通りは、時間帯によつては、タクシーがなかなか来なかつたり、器材によつては乗車拒否をされることもあっていらいらすることが多かつた。

入口の看板を折畳み式にしたり、更に小林甲蔵氏の努力によりパイプ組立式にしたりもした。

開設して忘れ物があると急いでタクシーで取りに戻らなければならなかつたこともしばしばで、これにこりて、チェックシートを作り、前日にトランクの中へ入れておくようにもした。

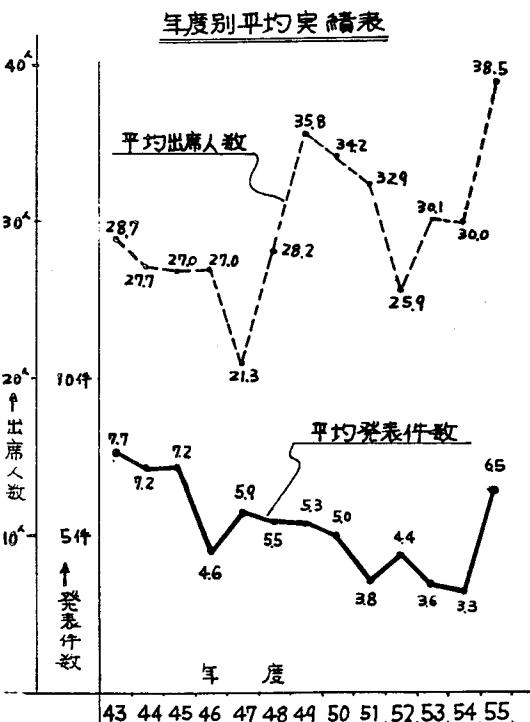
昭和51年2月横浜市中小企業指導センターが新築したばかりの朝日会館に移転し立派な会議室が出来たので4月の第92回から今日までここで開催するようになった。

○開催実績

実施回数	151回
出席人員	4,810名
発表件数	798件
発明相談件数	290件
研究会・講習会	67回

(昭和56年3月現在)

○出席人数と発表件数



発表件数と出席人数とは事務局の最大の関心事で、発表件数が少ないと時間が余ってしまう。受付を〆切った開催直前でないとわからない。

世話人の方に無理に発表をお願いしたり、発明学会からいただいた資料をコピーして渡したり、オール生活アイデアコンクールの作品を切抜コピーして配ったり、いろいろ苦心が多かつた。

上の図にあるように、45年まで続いたいざなぎ景気時代は良かったが、45年後半から円切上げ不況が来たので、発表件数は落ち込み、47年、48年過剰流動性好況には少し持ち直したが、50年以降のオイルショック、低成長時代に入り落ち込む一方であった。

このため、発明教室のありかたとして、発表中心でなく研究会を主体とした都度PRをする方針を49年度から打出すこととした。

このため発表件数はあまり増加しなかつたが、出席人員は増加の傾向となつた。

横浜がスタートした時、東京はすでに10年以上やっていた。横浜も10年は心棒しなければ定着しないだろう云われたが、いろいろ迷い、なやみ新しい方法を考え、又発明学会、新聞社等の協力等にささえられ、55年度に至りようやく上昇ぎみとなってきました。

[今まで協力いただいた講師の方]

45-11 第27回

「成功する発明・失敗する発明」

清水重一氏

46-2 第42回

「売れるマッチの考え方」

筒井一郎氏

46-3 第43回

「発明企業化の実際」

関実氏

47-12 第52回

「カンガールパンツの発明から販売」

三浦満義氏

48-4 第56回

「簡単に固まるプラスチックス」

塩崎芳男氏

48-8 第60回

「クリーニングペットの発明」

笹沼喜美賀氏

49-3 第67回

「磁気治療機の発明と実用化」

三木眞夫氏

49-8 第72回

「発明商法」

吉見義衛氏

49-11 第75回

「地震で閉るポンベ用バルブ」

大木精二氏

50-6 第82回

「災害から生命財産を守るために」

雨宮紋一氏

51-3 第91回

「今よく売れている家庭用品金物は」

渡辺タカ子氏

51-10 第98回

「強力万能ハンダアルミット」

日本アルミットKK

54-3 第127回

「ギフト・ノベルティー向商品」

竹内五一郎氏

54-7 第131回

「メカニズムこぼれ話」

金本恒氏

54-10 第134回

「発明これでよいのか」

中本守氏

55-3 第139回

「工業所有権制度の現状と問題点」

北岡実氏

「双重触媒水素発生方法」

石坂音治氏

第100回記念行事

昭和51年12月12日で100回開催となりこれを記念して次の行事を行った。

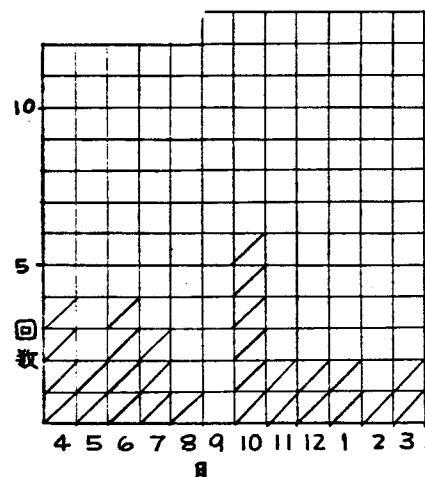
1. 記念講演
「アマ発明・プロ発明」
発明学会々長 豊沢豊雄氏
2. 感謝状及記念品贈呈
詠 薫氏（8年間委員長）
山崎一男氏（記録の作成）
筒井一郎氏（指導・育成）
一之瀬喜一氏（事務局担当）
3. 表彰状及記念品贈呈
石井一市氏（最多入賞）
4. 記念パーティー
豊沢先生を囲み寿宴で開催
31名出席

◎昭和55年度より出席奨励賞・発表奨励賞新設 次の方に賞を贈呈
(56年4月12日)

皆勤賞	
星野米男	白根春夫
吉田和正	藤村勇治
三橋良夫	計5名
精勤賞(9回以上出席)	
青木脩	安田善三
山崎隆道	小野寺峻
木藤素光	山崎一男
成宮庄次郎	計7名
発表奨励賞(6回以上)	
吉田和正	11回
青木脩	7回

〔こぼれ話し〕

〔オ2日曜日晴雨表〕



今までに151回開催いたしました。
12回開催の月と13回開催の月があり、山崎一男氏のご努力により晴天が記録されておりこれで見ると、晴天81%、雨天19%で第2日曜日は晴天が多いことがわかります。



○日曜発明教室発表作品展示コンクール

毎月日曜発明教室で発表される作品については、その都度出席者の投票により優秀賞として楯を贈呈している。

しかし、その月々により発表作品の内容にバラツキがあるため、翌月発表すれば入選した物が、その月は優秀な作品が多かったため入選しそこなうというケースがしばしばあった。

このバラツキを是正するため、昭和49年5月から、前年度中に発表した作品をもう一度(希望者)展示し、出席者の投票により年間優秀作品を決定することとした。

第1回～第2回

最優秀賞	1点	楯
優秀賞	1点	〃
優良賞	1点	〃

第3回以後は楯の他に賞金最優秀賞5,000円 優秀賞3,000円 優良賞2,000円をつけ、更に参加者全員に参加賞を贈呈した。

参加者が多くなったので、第6回から、優良賞を2点とした。

実施回数	7回
出品点数	148点
参加人数	98名
出席人数	409名

この年度中に発表された作品は、352件なので展示率は42%である。

○神奈川県発明考案展覧会に共催として参加

新技術、新製品の普及と発明意欲の高揚を図り県産業経済の発展に資するため、毎年発明考案展が開催されています。

本会は、第12回(昭和36年3月)より後援として参加し、第14回よりは、主催者の一員となり、毎回全会員に案内状を送り、会長賞を贈呈しております。

○会員出品入賞実績

参加回数	第12回～第31回 20回
出品者数	243名
出品点数	384点
入賞	特賞 53
賞	奨励賞 31

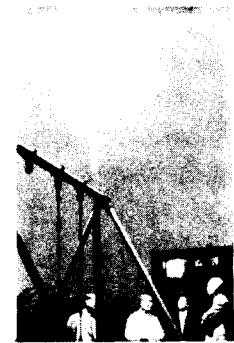
第14回よりは、負担金を支出し、会長が審査員として出席している。

(昭和55年4月現在)

○ 横浜市小中学生創意くふう展後援

第3回横浜市小中学生創意くふう展
(昭和45年9月26日～30日有隣堂)後援、入賞者80名に記念品贈呈。
第4回よりは、会長が審査に参加、会長賞を授与、表彰式に出席している。

昭和55年度第13回まで後援。



□ 実施化推進事業

○ 発明奨励金の交付

半井市長より公園の照明灯が破損して困るので破損しないものを考案してもらいたいとの要請があったので、会員中より募集したところ多数の応募者があった。

これを横浜市助成金交付要綱にもとづき審査をし、石黒安之助氏、佐久間雄幸氏の発明に助成金が交付されたがこれだけでは完全な試作ができないので本会からも石黒安之助氏へ4万円、佐久間雄幸氏へ3万円を贈った。37.5.28.

石黒氏の発明完成し写真をとり市長に報告したところ、実際に点灯しているところを視察したいとのことで37.7.9.午後7時西寺尾公園に設置し会長立ち会いのもとに市長に見ていただいた。佐久間氏の発明は38.1.26.から行われた第14回神奈川県発明展に出品し、同じく市長の参観を得た。

昭和55年度から省資源、省エネルギー、代替エネルギー利用の発明を試作研究をする者に、部品製作費として助成金を交付することとなった。(市よりの補助金1件5万円×5件合計25万円)



佐久間雄幸氏の発明



○ テーマ発明の試作研究助成

昭和55年度交付者

- バーナー燃焼方式のボイラーの加熱 温度低下防止器の試作研究 (5万円) 田村清志
- 風呂釜の逆循環防止弁の試作研究 (5万円) 白根春夫
- 螢光灯の点灯装置の試作研究 (5万円) 山崎隆道
- 折れても抜きとり出来るタップの試作研究 (5万円) 鈴木英雄
- 突切パイプの支持緊定装置の試作研究 (5万円) 越田逸之助

○ プロジェクトチーム

試作工業化商品化あっせんを促進するためプロジェクトチーム編成メンバー

小林甲蔵、成宮庄次郎、石井一市、詠薰、三橋良夫、山根克彦
昭和50年 7月13日発足

昭和53年12月まで継続
延26回会合を行った。(毎月5日定例日)結果新製品開発7件、の成果を上げた。

○ 発明推進部会

昭和53年12月よりプロジェクトチームを改称。5名のメンバーが主体になり次の事業を実施。

§ 自社製品開発研究会

53-12-5

①「発明と企業経営」

吉池科研機器㈱

社長 吉 池 極

(出席11名)

54-2-6

②「電解塩素メッキン装置の発明と企業化」

(有)横浜滅菌工業会長

小林甲蔵

③「成長新商品開発の秘訣」

開発経営研究所長

浦山公明

その1 54-3-5 (出席 19名)

その2 54-11-9 (〃 25名)

④コンクリート強化に実証された鋼纖維

「TESUSA」鉄筋その他の開発と実用化について

㈱サンゴ 社長

佐藤正美

55-3-18 (出席 13名)

§ 横浜自社製品開発研究グループ

(異業種技術交流研究会)発足

昭和55年よりこの研究会が、中小企業事業団の行う、異業種交流研究会の施策に乗ったので名称を拡大。横浜自社製品開発研究グループとし参加対象枠を本会法人会員の他に工業経営協会々員、受診企業に広げ、(通知約100社)実施。

55-9-29 (出席30名)

「1ヶ月でも開発できる

自社製品開発の手法」

技術士 新井澄夫

56-3-5 (出席30名)

「マイコン利用の製品あれこれ」

東京農大講師 佐々木彬夫

(出席28名)

両氏共中小企業事業団技術移転

専門調査員です。

昭和55年度異業種交流全国大会

昭和56年3月16日・17日、中小企業事業団主催の標記大会が東京のホテル竹橋会館で開催された。

本研究会からは参加申込39名中、11名が出席した。

実施化あっせん紹介実績

主として事務局で行ったものですが43年よりは日曜発明教室で実施したものも含みます。

相談・指導あっせん	894件
弁理士紹介	131件
工業化あっせん	90件
タイプ打あっせん	121件

相談指導あっせんデーターは昭和40年から15年間。

弁理士紹介、工業化あっせん、タイプ打あっせんのデーターは昭和45

年から10年間。

○発明試作協力工場の設定

昭和54年8月から会員の方の協力で部品製作工場が設定されました。

○板金・機械加工部品

㈱相模商会(法人会員・理事)

○木工部品

(有)三枝木工所(個人会員)

○プラスチック板加工

石井発明研究所(個人会員・理事)

ハ 発明技術向上事業

会員の発明技術を向上させるために講演会、講習会、研究会等を毎年実施してきた。

	回数	参加人数
講演会	36	1,888
講習会	11	406
研究会	38	1,287
映画による研究会	9	169

講演会のうち10回は総会の際、開催したもので、13回は他の団体と共催したものです。

主として時局に合った演題を主体とした内容が多く、昭和52年より、褒章受章者講演会を4月に4回開催した。

○他団体と共に開催した時の講師

大洋ホエールズ 別当勲

気象庁 杉本 豊

NHK研究所 高橋 浩

横浜国大教授 宮脇 昭

日経新聞 堤 佳辰

組織工学研究所 糸川 英夫

朝日新聞 岸田純之助

三菱製鋼所 牧野 昇

朝日新聞社 尾崎 正直

世界動態研究所 中西 重思(3回)

○本会独自で開催した時の講師

発明学会々長 豊沢 豊雄(3回)

開発経営研究所 浦山 公明(2回)

特許庁審査部長 味田 剛一

〃 総務課長 鯨井 鍾一

中山 正和

天野特殊機械KK 天野 修一

橋本電子研究所 橋本 健一(2回)

神奈川県 伊東 等

発明協会 滝沢 一男

ナルトスポーツ 岡 藤吉

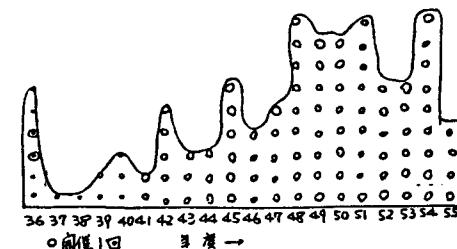
研究会のうち18回は外部講師、

20回は会員による実施化体験発表によるものです。

日曜発明教室の項に記載したので省略いたします。

[コメント]

講習会、研究会の実施回数は、合計94回開催し、年平均4、7回となります。昭和42年度より回数が多くなり、特に48年度からは年平均8回開催いたしました。



これは、何とか日曜発明教室の発表件数の落ちこみをカバーしようとの努力と、会員の方のご協力によるものです。

○見学会

発明家の知識を広くするために見学会は大きな役割を果しているが、発明家の集団ということで当初は見学せてくれる工場が少なかった。

そこで公設或いは大手の研究所、見学コースの出来ている大工場を見学した。

しかし、見学者にとっては、もっと近くで見たい、もっとくわしく知りたい気持ちが強く、不満が多かったので、その後は横浜市が指導している優秀な、中小企業の見学を主体にするように切換えた。

○ 3 7 - 1 - 1 7 (3 7 名)

東京都立アイソトープ研究所

○ 3 8 - 2 - 1 3 (5 2 名)

八幡製鉄所東京研究所

○ 3 8 - 3 - 2 4 (5 1 名)

発明協会研究所

第 4 回全国発明工夫コンクール展

○ 3 8 - 1 0 - 3 0 (4 4 名)

国鉄技術研究所

○ 3 9 - 1 2 - 2 (4 0 名)

日本クロレラ研究所

○ 4 0 - 4 - 2 6 (5 0 名)

日産自動車追浜工場

○ 4 0 - 1 1 - 2 6 (3 2 名)

田中サッシュ工業㈱

かもめプロペラ ㈱

○ 4 1 - 3 - 1 8 (3 6 名)

各務クリスタル製作所

第 7 回全国発明工夫コンクール展

○ 4 1 - 1 1 - 2 (3 4 名)

国際鉄工㈱

日本金鋼㈱

○ 4 2 - 1 1 - 7 (2 6 名)

大木捺染㈱

京浜精練㈱

○ 4 4 - 1 0 - 1 5 (4 4 名)

日本ナショナル金銭登録機㈱

神奈川県工芸指導所

○ 5 1 - 3 - 1 9 (1 7 名)

横浜プレシジョン㈱

○ 5 2 - 1 0 - 2 6 (3 0 名)

㈱三晃製作所

㈱細谷製作所

ニ 情報資料提供事業

発明に関する情報を会員につたえることは、会にとって重要な事業の一つです。

特に、国、県、市の行う発明助成事業・発明コンクール・発明展等の公募、開催等をダイレクトに通知を受けることは会員として大きなメリットで、この点を重要視し努力してきました。

○ ニュースの変遷

創立当初は、事業のたびにニュースを不定期に発行していました。

昭和 40 年 7 月よりセンターニュースが発行されるようになったので紙面の一部割当を受け、第 1 号より発送するようになったので本会ニュースは中止した。

昭和 48 年 8 月、日曜発明教室ニュースを発行、49 年 9 月第 13 号から本会ニュースに切換、昭和 56 年 3 月で第 80 号となった。

始めの頃は、タイプを打ってもらい事務局で印刷していたが、第 38 号からタイプオフセット印刷までしてもらうようになり質的には向上したが、経費が掛るので会員の方から広告をいただき経費の半分をまかなうようになつた。

毎月発行を目標として来たがなかなか達成出来ずに来ている。

ニュース

会員者数(脱落) 圖案決定



新会員御紹介

昭和 56 年 3 月 10 日

(左) 人会員
日本自動機械(株)
史 研印 制(株)

(右) 戸塚区
市 区

昭和 56 年 3 月

第 80 号

発明懇話会 ニュース

優秀な発明品の創造と企業化の途を
開くため次の事業を行っています。
○ 募集会、講演会、見学会の開催
○ 日曜発明教室(毎月第 2 の開催)
○ 作業工芸文化のあせん、○ 発明相談

会員のシンポジウムであるときの図書をかねて落書きましたところ、
12 名の方々から 22 件の図書がありましたので以下に示しました
どうぞこの図書が入選と決定いたしました。

入選 桜井 秀利

中小企業指導センター ニュース

中小企業指導センター ニュース



昭和 48 年 8 月 第 1 号

日曜発明教室 ニュース

(会場) 横浜市中区尾上町 (事務局) 横浜市中区日本大道 11
神奈川県中小企業会館 5F 横浜発明懇話会
毎月第 2 日曜日午後 1 時 ~ 5 時 〒231 TEL 045-201-2725

「成功者明に学ぶ」その 4.

クリーニングペントの発明と実施化について

東京発明研究会 研究部長 徳 召 審 美 賀 氏

8 月 12 日(水) 9 月 9 日(水) 横浜発明会
において、上記セミナーを行いました。

又、改多く売れるところもあらわれて来る
そこで、フロート式を又詳しく考査し「
熱心に会話を引きました。宇沼さん
クリーニングボール」として示出し、更

昭和 48 年 9 月 第 2 号

日曜発明教室 ニュース

(会場) 神奈川県中小企業会館 5F
横浜市中区北上町国税局前 3 分
毎月第 2 日曜日 午後 1 時 ~ 5 時
TEL 045-201-2725

オ 6 1 回(9 月・日) の結果について

今回より、前回までの名表申込が 1 件
しかなく、歩道店は心配しました。
しかし、当日になつて 3 件の名表が
あり、又出席された方々の協力によ
り盛況に終りつといたしました。
行事内容は次のとおりです。

- A. マンガ
- B. 手帳(横中日記帳)
- C. メモ帳(B6 枚、天ノリ帳)
- D. 一枚刷カレンダー(一枚に 12 ヶ月分)
- E. 軽金箱
- F. 金券

上記 5 項目を地元販賣店から 3 まで
定めるところに取り組んで選出
したもの。

1. 金券用
2. 文具の中古

○今までに印刷配布した主な資料

42/1	5年歩み	300冊
/12	あなたのアイデアを受付けてくれる会社	250部
43/3	特許発明の紛争とその解決法	200部
7	工業所有権制度改正に関する中間報告	200部
9	未来技術の展望	200部
44/1	工業所有権制度改正答申	200部
12	技術革新と中小企業	200部
47/3	発明企業化方程式	200部
48/1	無想と着想	200部
3	企業と特許	50部
50/12	特許運用基準	40部
54/5	省資源、省エネルギー情報	300部

○会員名簿の印刷

名簿は技術交流の資料として大切な情報資料なので毎年印刷配布すべきですが、財政上大きな負担となり思うようには出来ませんでした。

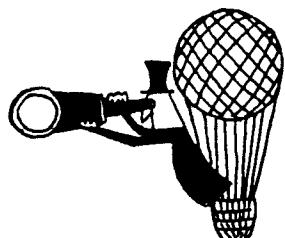
そこで、53年、54年分については広告をいただきまかないとしました。

今までに印刷した年度

36/4	44/10
37/10	49/2
38/9	53/1
41/4	54/4
42/9	

○年賀状の発送

講演会・講習会等でお世話になった先生方・発明関係団体・県市関係・会員等に毎年々賀状を送付した。	昭和40年～41年	毎年150
	〃42年～48年	〃200
	〃49年～50年	〃400
	〃51年～55年	〃250



視野を広げて多くを知る

ホ 会 運 営 事 業

○総 会

規約により毎年1回定期に総会を開催して來た。

創立総会から昭和37年までは半井市長が出席、昭和38年度には飛鳥田市長が出席されました。

☆創立総会 36. 1.13 13.00～

横浜開港記念会館 60名

昭和37年度総会 37. 7.17 11.00～

氷川丸 51名

☆昭和38年度総会 38. 7.17 13.00～

横浜集会所 50名

昭和39年度総会 39. 7. 7 15.00～

氷川丸 52名

☆昭和40年度総会 40. 7.15 13.00～

神奈川県中小企業会館 34名

昭和41年度総会 41. 6.29 13.00

(創立5周年祝賀会)

横浜ステーションビルフラワー

ルーム 49名

☆昭和42年度総会 42. 5.23 15.00～

横浜ステーションビルフラワー

ルーム 45名

昭和43年度総会 43. 5.16 15.00～

横浜ステーションビルフラワー

ルーム 35名

☆昭和44年度総会 44. 5.27 13.00～

横浜酒販会館 33名

昭和45年度総会 45. 5.21 13.00～
横浜酒販会館 46名

☆昭和46年度総会 46. 7.16 14.00～
(創立10周年記念祝賀会)

感謝状並びに記念品贈呈

市長より

加藤 清右衛門

会長・名誉会長より(10年)

小林 甲蔵 井上 太保

川村 秀義 黒 治夫

辻村 泰作 鈴木 洋二

一之瀬 喜一 7名

会長より(10年以下)

富田 仙三郎 成宮 庄次郎

松波 秀利 詠 薫

太田 恒次郎 稲田 保

佐久間 盛郎 原沢 義男

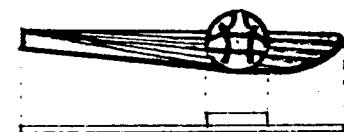
石黒 安之助 小林 茂司

進藤 健造 三橋 良夫

佐藤 正美 山崎 一男 14名

○全員に記念品としてマーク入り

ネクタイピンを配布



昭和47年度総会 47. 6.20 13.00～

横浜酒販会館 35名

☆昭和48年度総会 48. 5.24 13.00～

横浜酒販会館 50名

昭和49年度総会 49. 5.23 13.00～

横浜酒販会館 38名

☆昭和50年度総会 50. 5.29 14.00～

　　横浜酒販会館 40名

昭和51年度総会 51. 5.20 14.00～

　　横浜酒販会館 30名

☆昭和52年度総会 52. 5.26 14.00～

　　横浜酒販会館 33名

昭和53年度総会 53. 4.22 14.00～

　　神奈川県中小企業会館 32名

☆昭和54年度総会 54. 5.23 14.00～

　　横浜酒販会館 35名

昭和55年度総会 55. 5.20

　　横浜酒販会館 31名

臨時総会 56. 1.13

　　横浜郵便貯金会館 68名

○会の名称変更

○半井清氏感謝決議

☆印は役員改選のあった年度

○役員会

毎年総会開催前には、提出議案について、年度中には事業執行について、毎年度平均2回は開催して来た。

昭和38年12月13日には碧水荘に泊し親睦を深めた。

昭和46年10月6日加藤会長死亡にともなう後任会長、副会長選任の役員会・昭和48年8月6日、成宮氏・辻村氏から寄せられた大口寄附金について、昭和53年11月15日、井上会長死亡にともなう後任会長、副会長の選任等が印象に強く残っている。

昭和55年になり、創立20周年記念事業・発明補助金交付について役員会を5回開催し、役員の方にはお忙しい思いを致させました。

○新春懇親会

法人会員と個人会員との人間関係をつくりアイデアの交流をはかるために昭和39年1月14日開港記念会館で新春懇親会を開催したところ好評であった。

昭和41年1月から毎年下旬に開催。賀詞交換懇親を主体として来たが、会員の中から叙勲者・褒章受章者が出るようになつたので、この方々に対するお祝いも併せ行った。

開催回数	15回
出席人数	612名

本会は個人会員が多いので昭和52年までは午後5時～8時までの夜間開催していた。

老人の出席者も多いことから、昭和53年以降は午後2時～5時の昼間に切換えた、このためか夜間は平均45人の出席であったのが昼間は平均33人と減少した。

昭和51年からアイデア福引を実施好評で以後毎年続けて来た。

この会は親睦がねらいなので話題は定めていないが毎回中本守顧問さんのテーブルスピーチは大変有意義であり、松本栄吉氏の声色が皮切りでのど自慢となり、他の団体ではかもし出せないなどやかさであった。半井さん、市の局長さんは必ず出席されました。

○規約の改正(役員)

☆昭和44年度総会(44.5.27)

第11条 役員の項に副会長1名を追加

(第13条・14条に追加)

小林甲蔵氏が副会長に就任

☆昭和47年度総会(47.6.20)

第11条 副会長を2名とする。

常務理事の選任

第14条 3.常務理事の任務

第18条 参与の新任。

2.顧問の任命・任務

3.参与の任務

常務理事 川井専蔵、横浜市中小企業指導センター所長

参 与 碓井 貢 同上工業経営指導係長

〃 若菜 清 同上相談指導係長

事 務 長 一之瀬 喜一

§ 昭和43年加藤会長が外遊され2ヶ月程留守になったので副会長が必要となり、44年総会で改正した。

昭和46年度総会に於ける役員改選に不手際があり、46年度中臨時に副会長2名ということで会を運営して来た。

昭和47年度総会において副会長2名に改正した。

○会長副会長選任

加藤 清右衛門 会長

昭和36年1月13日(創立)より
昭和46年8月24日(逝去)

8月26日自宅密葬 4名

9月 3 日日本社通夜 6名

9月 4 日告別式 30名

(葬儀委員長に半井清氏を依頼)

井 上 太 保 会長

昭和46年10月6日 理事会において、昭和46年度総会において副会長に就任された同氏が会長に選任された。

昭和53年10月14日(逝去)

10月16日 自宅密葬

11月 7 日 総持寺社葬

全役員参列

小 林 甲 蔵 会長

昭和53年11月15日、理事会において選任。

昭和54年度総会で再任され現在に至る。

成 宮 庄次郎 副会長

昭和46年10月6日理事会において選任され現在に至る。

川 村 秀 義 副会長

昭和53年11月15日理事会において選任され現在に至る。

(2) 創立より 20 年間の会員の推移

発明考案に関心を有するものならばだれでも入会できます。(規約第4条)現在特許や実用新案を持っている人は勿論、これからとろうとする人、性別、住所の如何を問いません。

会員の構成は

- (1) 法人会員 法人による入会者
- (2) 個人会員 個人による入会者
- (3) 特別会員 本会の事業に協力する専門的学識経験者及び本会の発展に功劳のあったもの
- (4) 名誉会員 名誉会長をつとめたもの

となって居り、この主旨でこの 20 年間進めて来ました。

会員の状況

(人数は各年度末の在籍)

年 度	一 般 会 員			名譽会員	特別会員	顧 問	合 計	入 会		脱 会		備 考
	法 人	個 人	計					法 人	個 人	法 人	個 人	
創立	37	47	84				6	90		11	0	脱会には、届による脱会、死亡、除名を含む。
36	37	58	95				6	101		0	0	
37	37	75	112				7	119	3	24	3	
38	38	76	114	1			7	122	1	11	0	
39	37	78	115	1			7	123	2	11	3	
40	38	90	128	1			7	136	1	12	0	
41	39	81	120	1	2		8	131	2	16	1	25
42	38	90	128	1	3		8	140	0	9	1	0
43	39	92	131	1	3		8	143	2	13	1	11
44	38	102	140	1	2		8	151	3	17	4	7
45	37	114	151	1	2		8	162	0	14	1	2
46	37	114	151	1	2		8	162	3	4	3	4
47	37	113	150	1	2		8	161	1	9	1	10
48	37	110	147	1	2		8	158	3	16	3	19
49	36	122	158	1	2		7	168	0	26	1	14
50	36	127	163	1	2		7	173	0	15	0	10
51	39	112	151	1	2		7	161	3	6	0	21
52	38	145	183	1	2		6	192	2	48	3	15
53	38	159	197	1	2		6	206	2	29	2	15
54	38	169	207	1	4		6	218	2	28	2	18
55	36	182	218	1	3		6	228	0	18	2	5
							累 計	30337	31	202		

○印は会費改訂年度

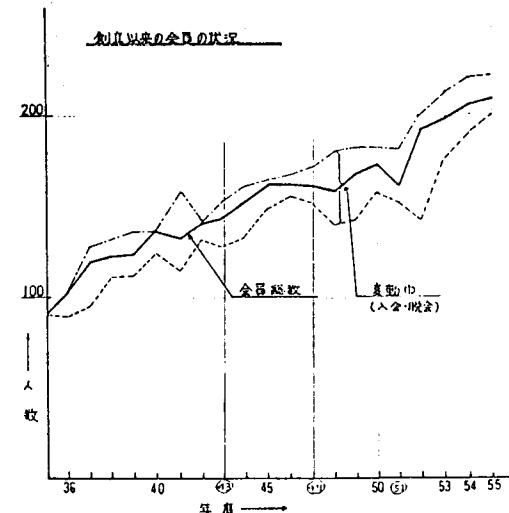
(3) 財務について

会の経費は、会費(臨時会費を含)横浜市補助金、事業収入、寄附金等でまかっている。

会計を置かず、会長の委任を受けた事務長が収入、支出の決裁を常任理事に受けて執行している。

年度末には監事3名の監査を受け、総会で承認を受けている。

1 会 費 の 推 移



会員の増加は、事業が活発になった昭和42年からいちぢるしくなり、特に、日曜発明教室を始めた、昭和43年度より増加の一途をたどっている。

会の事業は、会員対象にすればよいのだが、それでは会員は増えない。

会員は毎年度どんなによい事業を行っても発明に意欲を失えばやめて行くものです。

それを上回る入会者を得なければ、会員は増加しない。

そういう意味で、会員以外も対象とした日曜発明教室は効果があったと思います。

一年間会費未払の者は、翌年一年間会員にする処置をとったり、昭和52年度からは会の案内を印刷、積極的に会員募集のキャンペーンを続けている。

今まで、43年、47年、50年、51年と会費の値上をしており、その年はどうしても減少する傾向があります。

会員別 年度	法 人 会 費	個 人 会 費
36年 ～42年	円 3,000	円 1,000
43年 ～46年		1,500
47年 ～49年	5,000	
50年	6,000	2,000
51年 ～55年	10,000	3,000

口 収 入 に つ い て

昭和42年まで7年間会費は据置だったので、個人会員の増加(1.9倍)分と、昭和40年から新春懇談会を始めたので臨時会費徴収分が総収入額を増加させた。

入会費の値上を行い法人会費との比率を1:2.5とし、この比率を保ち昭和50年にも値上を行った。昭和48年度に多額の寄附金がありこれを定期預金とし、その利子を雑収入に加えたので収入総額は増加した。

収 入 内 訳 表
(単位千円)

年 度	横浜市 補助金	会 費			日曜発明 教室	基 金 利 子 金 基 金 利 入 金	雑 収 入	前年度 繰越金	合 計	
		年会費	臨時会費	合 計						
36	200	156	0	156	0	0	54	4	414	
37	200	152	24	176	0	0	9	102	487	
38	200	141	20	161	0	0	6	104	471	
39	200	162	17	179	0	0	12	86	477	
40	200	193	45	238	0	0	7	65	510	
41	200	194	53	247	0	0	14	45	506	
42	200	202	74	276	0	0	8	5	489	
*43	200	325	77	402	26	0	0	12	3	643
44	200	339	90	420	63	0	0	20	0	712
45	200	344	53	397	59	0	0	13	0	669
46	200	338	118	456	55	0	35	21	5	772
*47	200	344	87	431	40	0	0	3	0	674
48	200	377	124	501	88	0	60	9	2	860
49	200	418	113	531	70	58	40	16	5	920
*50	215	531	125	656	109	47	30	22	2	1,081
*51	276	640	112	752	118	62	82	39	0	1,329
52	238	742	189	931	96	71	0	160	0	1,496
53	225	809	179	988	121	56	0	43	18	1,451
54	220	844	136	980	108	41	0	174	24	1,548
55	450	940	275	1215	120	86	0	109	36	2,016

※印 会費改訂年度

昭和43年会費の値上を行ったのと9月より日曜発明教室を開始したので雑収入が増加し始めた。更に個人会員の伸びが大きく44年2.1倍、50年2.7倍となったため47年度より個人会費の収入が法人会費の収入を上廻るようになった。

昭和46年に10周年記念行事を行うため昭和45年度の新春懇談会を中心としたのでその臨時会費分だけが減収になりカープを下げた。昭和47年個

創立以来横浜市の事業費補助金は、20万円に固定されているが、昭和51年度から事務所費の補助金分が増加した。

昭和55年度から事務所費は市負担となり、更にテーマ発明の助成に対する補助金が25万円出るようになった。

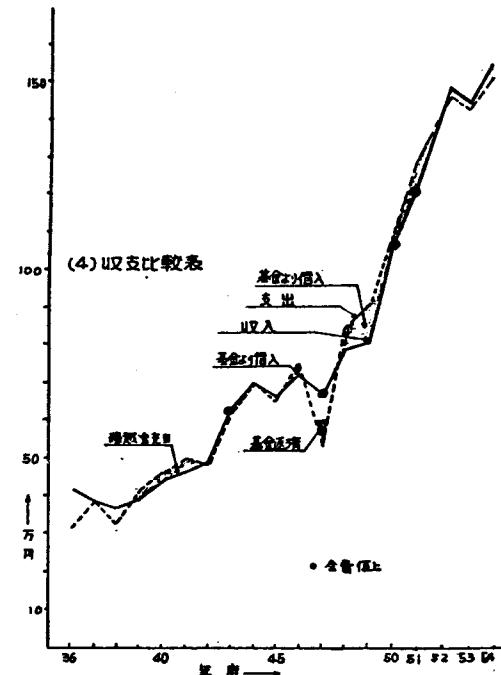
昭和52年度より飛躍的に会員が増加したのに伴ない収入は伸長した。

ハ 支 出 に つ い て

支 出 内 訳 表

(単位千円)

年 度	事 業 費	運 営 費	事 務 所 費	合 計	備 考
36	165	147	0	312	事業費内訳 日曜発明教室(43年より) 講演会、研究会、見学会 ニュース、資料の発送等
37	182	200	0	382	運営費内訳 総会、理事会、新春懇談会 会費、一般事務
38	176	148	0	324	
39	241	171	0	411	
40	252	214	0	466	
41	301	200	0	501	創立5周年記念行事
42	287	200	0	486	
43	343	280	0	623	
44	433	272	0	705	
45	317	341	0	658	
46	314	456	0	770	創立10周年記念行事
47	287	384	0	671	基金戻入145
48	388	467	0	855	
49	485	432	0	917	
50	671	397	13	1,081	
51	785	422	120	1,327	
52	717	644	117	1,478	
53	754	549	124	1,427	
54	849	546	117	1,512	
55	1,229	768	0	2,015	創立20周年記念行事



創立から2年間は、事務局が、他の発明奨励事業(市直接)を担当していたので本会の事業は低調であった。したがって繰越金が多かったので、昭和42年度までは繰越金を充当しながら会費の値上げをせずに運営して来た。

昭和43年、日曜発明教室開設とともに事業が活発化し、支出は増大した、特に昭和48年ニュースを発行し始めてから赤字が多くなったので、50年、51年共に基金から借り入れを行いカバーして來た。

その後、ニュース、名簿の印刷には広告をとり自主努力を重ねた結果、赤字はなくなったが、物価の値上がりがきびしく近々、会費の改訂が必要となって來ている。

ニ 基 金 に つ い て

基 金 積 立 経 過 表

年 度	一般基金	内 訳	日曜発明教室運営基金	内 訳	基 金 合 計
3 9	6 4,2 6 7	天野寄附 50,000 利子他 14,267			6 4,2 6 7
4 0	6 9,8 9 9	寄附金・利子 5,632			6 9,8 9 9
4 1	7 7,1 8 6	" 7,287			7 7,1 8 6
4 2	9 1,4 7 1	" 14,285			9 1,4 7 1
4 3	1 1 0,8 2 0	" 19,349			1 1 0,8 2 0
4 4	1 1 4,3 7 2	利子 3,552			1 1 4,3 7 2
4 5	1 1 6,9 9 2	" 2,620			1 1 6,9 9 2
4 6	1 0 4,1 1 0	寄附金・利子 21,908 一般会計へ △ 34,790			1 0 4,1 1 0
4 7	2 7 2,6 6 8	寄附金・利子 23,768 一般会計より 14,4790			2 7 2,6 6 8
4 8	3 2 8,6 4 3	辻村寄附 100,000 他 15,375 一般会計へ △ 60,000	3 5 0,0 0 0	小林寄附 264,850 成宮寄附 130,000 一般会計へ △ 44,850 成宮寄附 130,000	6 7 8,6 4 3
4 9	2 9 4,1 4 9	利子 10,623 一般会計へ △ 45,117	4 5 0,0 0 0	利子 23,069 " △ 53,069 7 4 4,1 4 9	
5 0	2 7 7,1 3 9	寄附金・利子 13,447 一般会計へ △ 30,457	5 5 0,0 0 0	利子 17,375 " △ 17,375 8 2 7,1 3 9	
5 1	1 9 5,3 4 9	利子 7,471 一般会計へ △ 89,261	6 5 0,0 0 0	利子 48,721 " △ 48,721 8 4 5,3 4 9	
5 2	2 2 5,3 4 9	高田寄附 30,000 利子 16,777 一般会計へ △ 1,577	1,0 0 0,0 0 0	成宮寄附 100,000 小林寄附 250,000 利子 69,548 " △ 69,548 1,2 2 5,3 4 9	
5 3	2 8 7,3 4 9	寄附金・預り金 62,000 利子 7,833 一般会計へ △ 7,833	1,0 0 0,0 0 0	利子 47,775 " △ 47,775 1,2 8 7,3 4 9	
5 4	2 6 7,3 4 9	松本寄附 10,000 利子 4,407 一般会計へ △ 34,407	1,0 1 4,9 0 0	利子 52,075 " △ 37,175 1,2 8 2,2 4 9	

横浜市からの補助金交付を受けているので、決算は收支トントンにすることが必要であるが、くりこし金が少ないと、新年度当初の運営に支障を来たすことになり何とか運営基金を作る必要にせまられた。

たまたま横浜市部会の残金が振替口座に 2,4 8 0 円あったのでこれに発会式残金、天野氏寄附金を加え、基金の核とし、毎年度の預金利子、祝金、寄附金等を積立てて来た結果、昭和 4 6 年度には 1 3 8,9 0 0 円となった。

昭和 4 3 年 9 月から毎月日曜発明教室を開始したので収入・支出とも増加したが、昭和 4 6 年度には赤字（10 周年記念事業、用紙の大巾値上り）と

なったので基金より借入赤字を補填した。翌 4 7 年度には返済したが、4 8 年度より収支が悪化したので毎年度基金より補填する結果となつた。

昭和 4 8 年 辻村泰作氏（理事）夫人が逝去され葬儀が終ったあとで知つたので、成宮副会長さんと辻村氏の自宅におくやみに伺つた。

その際香典のお返しをせず、会の方へ 10 万円寄附するとの申し出がありこのことが呼水となればとの口添があつた。

この申し出を受けることは、二人の一存では行かず後日役員会を開いてご返事すると告げ爾去した。

その後、成宮副会長さんから、丁度

今年で 70 才になり年金がもらえるようになつた。しかし私は未だ現職なので不用である、あと 5 年は身体に自信があるので毎年 10 万円づつ寄附し、50 万円になるまで続ける。

そうすれば定期の利子 6 % としても 3 万円となりその利子を日曜発明教室を盛にするために使ってほしい、ただし、5 年先の 3 万円はまつないので当面毎年 13 万円ずつ寄附するとの申し出があつた。

この 2 件について昭和 4 8 年 8 月 6 日役員会を開いたところその席で、小林副会長さんから 25 万円の寄附申し出がありこの 3 件について検討した結果有難たく申し受けることに決定した。

成宮、小林両副会長さんの寄附は、ご主旨のとおり日曜発明教室基金とした。

その後、褒章受章者・叙勲者の方々からその都度寄附がありこれらは一般基金とし、寄附のあった両基金は定期預金又は割引債券としその金利を一般会計にくり入れご主旨に添つて來た。

昭和 5 2 年成宮副会長さんの申し出が完了した際、小林副会長さんより、25 万円の寄附があり、基金の合計は表のとおり増加しました。

昭和 4 9 年度より 5 5 年度までに一般会計にくり入れられた基金利子は、421 千円に達し、総収入に対し 5 % を占め、会の運営に大きく貢献している。

(4) 事務局

イ 事務局所在地

創立当初、横浜工業館内に置いたが、昭和 3 9 年 3 月 17 日、横浜市中小企業指導センターが設立され、工業館 2 階へ移転したので以後、正式に横浜市よりセンター内に事務所（約 3 坪）を借受けた（無料）。

昭和 5 1 年 2 月 12 日、横浜朝日会館へ移転。有料となり 3 平方メートル分の家賃を支払うようになった。

昭和 5 5 年度より市が負担するようになつたので看板料のみ支払っている。

ロ 事務局人事

創立当初、専任の職員が置けるようになつたが、会が発展するまで事務局は、横浜市経済局中小企業課が担当することとなつた。したがつて市の人事移動があれば、自動的に事務局員が変わることとなり、その結果は次のとおりあります。

昭和 3 6 年 1 月創立当初
事務長 島根 正光 中小企業課長
主 事 鈴木 洋二 同 指導係長
書 記 一之瀬喜一 同 指導係
昭和 3 6 年 1 2 月
事務長 大山 茂 中小企業課長
昭和 3 8 年 9 月
事務長 鈴木 洋二 中小企業課長
参 事 岩淵 和哉 同 指導係長

主事 植岡 陽太 中小企業指導係
〃 一之瀬喜一 同 指導係

昭和39年3月横浜市の機構改革があり中小企業課は廃止され中小企業指導センターとなつたので事務局担当者の職名も変更された。

事務長 鈴木 洋二 横浜市中小企業指導センター所長

参考 岩淵 和哉 同 相談指導係長
〃 笠原 仁児 同 経営指導係長

主事 植岡 陽太 同 経営指導係
〃 一之瀬喜一 同 同

昭和40年3月岩淵和哉係長転勤となつたため、谷野護係長が参考事になった。昭和42年、笠原仁児参考事が退職されたので、碓井貢氏が工業経営指導係長になられたので参考事となつた。

昭和44年谷野参考事の後任として若菜清氏が参考事に、昭和49年若菜氏に替わり、石井優氏が参考事となつた。

昭和46年12月、鈴木洋二事務長退職のため、昭和47年1月4日より、川井専蔵氏が事務長に就任した。

昭和46年度総会において規約の一部改正が行われ、今まで中小企業指導センター所長が事務長であったものを、常務理事とし、参考事であった、相談指導係長、工業経営指導係長は参考となり、事務局主事であった一之瀬喜一が事務長となつた。

昭和55年川井専蔵氏が退職され渋谷晴男氏が常務理事に、同氏が昭和56年退職されるので、昭和56年1月から碓井貢氏が常務理事になり、又柳沢剛氏が参考となつた。

昭和56年1月13日(20周年)
現在の事務局構成。

常務理事 碓井 貢

(5) 財産目録 (主なもの)

スチール両開書庫	3
〃 引戸式書庫	1
レターケース	2
スチール机	1
〃 腰掛	1
テープレコーダー	1
紙裁断機	1
鉛筆削器	2
宛名印刷器	1
ビジブル台帳	6
名札スタンド	1
テープセミナー	5巻
オートスライド	3巻
ポラロイドカメラ(寄贈)	1
手提金庫	2
印 箱	1
手 箱	1
ワイヤレスマイク	1
プリントゴッコ	1
会 旗	1
日の丸	1
和文タイプ	1
電 卓	1
チェックライター(寄贈)	1
発明関係図書(寄贈を含)	70冊

会員名簿

(昭和56年1月13日創立20周年在籍者)

1 役 員	参 与	石 井 優	(市)
名誉会長 細郷道一(市長)	〃 柳沢剛	〃	
会長 小林甲蔵(法)	2 顧問		
副会長 成宮庄次郎	〃		
〃 川村秀義(個)	横山亨	横浜国大工学部長	
理事 石黒安之助(法)	三宝義照	神奈川大学	
〃 進藤健造	川口英雄	関東学院大学	
〃 佐藤正美	工学部長		
〃 富田仙之助	中本守		
〃 北川隆三	荒井文治	横浜国大教授	
〃 詠薰(個)	木脇不美男	横浜市発明指導員	
〃 太田恒次郎	(弁理士)		
〃 稲田保			
〃 三橋良夫	3 事務局		
〃 山崎一男	事務長	一之瀬喜一	
〃 鈴木洋二			
〃 石井一市			
〃 山田勇	横浜市中区日本大通15		
〃 大木敏一(市)	横浜朝日会館6階		
常務理事 碓井貢	TEL 662-6631		
監事 小泉恵三郎(法)			
〃 木藤素光(個)			
〃 岡本坦(市)			

4 会 員

名 誉 会 員

(1) 半 井 清

(2) 特 別 会 員

安 藤 正 美

滝 沢 一 男

辻 村 泰 作

(3) 法 人 会 員

鶴見区

株 飯島製作所

飯島 春男

株 相模商会

石黒 安之助

株 山口製作所

山口 長一

神奈川区

株 北川製作所

北川 隆三

ニッポー株

知見 愛民

西 区

株 岡村製作所

吉原 謙二郎

株 セオクレーン

小泉 恵三郎

三光精機株

永峰 正雄

中 区

サーン株

外山 富美子

日亜機械工業株

藤井 義郎

南 区

資 石川精機製作所

石川 猛

東邦印刷株

石原 順次

日新製鎖工業株

大胡 誠一

有 横浜合金金型鋳造所

齊藤 健治

合 石川鉄工所

石川 一正

ヨガーヘルス器販売株

井上 昭三

港 南 区

和 泉産業株

齊藤 安三郎

株 山 装

山田 勝康

保土ヶ谷区

株 シラド化学

白土 豊

株 富田鉄工所

富田 仙之助

旭 区

株 原硝子工業株

萩原 金八

磯子区

株 大井製作所

大井 寿郎

横浜滅菌工業有)

栗原 久宗

金沢区

横浜プレシジョン株

鈴木 巍夫

港北区

株 N K 製作所

成宮 庄次郎

ヨシイケ科研機器株

吉池 極

株 サンゴ

佐藤 正美

有 玉置電機製作所

玉置 辰郎

緑 区

山下工業株

山下 栄藏

戸塚区

日本自動精機株

田中 政道

富士鉄工株

進藤 肇志

神中ダイカスト工業株

中里 熊藏

東洋メタライト工業株

島津 嘉郎

市 外

有 コバヤシデンチケンキュウジョ

小林 甲藏

株 三晃製作所

山本 光男

株 高見沢工機株

高見沢一男

法 人 会 員

3 6 社

(4) 個 人 会 員

鶴見区 4 名

中山 仁 助 鶴見 元吾

増田 舜 尾形 義範

神奈川区 6 名

加々美 敬 司 三枝 秀夫

津山 滋 安沢 幸一

石野 珠 子 影浦 幸士郎

西 区 8 名

加藤 光 尚 田 中 実

藤村 勇 沢 笠 原 满佐美

渡辺 洋 子 八木 康 郎

高木 庄 七 大久保 紀 男

中 区 15 名

稻田 保 内 田 昌 三

川村 秀 義 柴 山 淳 彦

大城 健 寺 本 谷 貞 久

細野 長 寿 三 平 尾 城 市 裕

渡辺 正 信 平 黒 城 春

杉村 達 郎 黒 木 春 吉

土川 敦 三 中 野 隆 吉

三ツ元 平 八

南 区 14 名

太田 恒 次 郎 岡 本 覚 藏

大場 弘 川 崎 信 藏

白田 達 郎 鈴 木 洋 二

横谷 四 郎 田 村 志 慧

坪井 治 郎 西 山 慧 正

一寸木 重 夫 吉 田 和 郎

林 賢 司 金 義 郎

港 南 区 11 名

南 施 貴 相 沢 宏 司

速水 啓 三 宮 戶 一

宮崎 洋 介 乾 信

南 区 9 名

太田 恒 次 郎 岡 本 伊 助

大場 弘 川 崎 堀 健

白田 達 郎 鈴 木 正 忠

横谷 四 郎 田 島 正 忠

港 北 区 9 名

太田 恒 次 郎 岡 田 丑

大場 弘 川 崎 弥

白田 達 郎 鈴 木 秀

横谷 四 郎 田 島 雄

堤 節 子 牧 平 坦 太

桑 井 旭 植 岡 陽

伊 藤 長 正

保土ヶ谷区 6 名

佐々木 哲 夫 佐々木 茂

杉 山 伸 夫 有 馬 功

山 内 真 五 郎 小 島 敏

旭 区 11 名

大 川 功 小 成 田 道

角 井 郁 夫 鳥 居 豊

三 橋 良 夫 袋 井 雄

吉 村 孝 義 森 石 雄

阿 部 和 子 神 廉

吉 田 ケ イ 子 義 一

磯 子 区 11 名

梅 田 浩 司 亀 井 盛

佐 藤 寛 間 佐 久 間

筒 井 孝 輔 沢 道

山 口 照 雄 星 重

大 川 登 志 朗 富 横

鈴 木 英 雄 春

金 沢 区 9 名

相 川 宗 八 石 井 助

神 谷 武 夫 堀 健

松 田 芳 和 田 正

吉 原 正 治 島 忠

小 野 寺 峻

港 北 区 9 名

笛 岡 義 人 田 中

中 村 雅 晴 浜 弥

矢 島 克 己 山 根

吉 沢 一 男 梶 秀

渡 辺 正 義 雄

— 51 —

緑区 7名

高木	盛	家	山	田	勇
大貫	和	保	養	田	聖次
畠山	勝	重	高	橋	昌久
白井		晃			

戸塚区 15名

岸川	静	男	松	永	宣	行
加瀬	清		葛岡	忍		
安田	善	三	伊藤	宗	一	
中島	巖		石川	新	次	
関根	和	美	吉沢	伸		
岡谷	徹		中島	耀子		
坂谷	昭吾		桃	三		
手塚	康夫					

瀬谷区 2名

藤崎	元	平	沢	紫	郎
横須賀市	7名				
山崎	一	男	木藤	素	光
上条	隆	義	黒沢	巖	雄
小塩	豊	許	輩	紀	元
青山					
川崎					

川崎市 5名

森田	英五郎	折原	利三郎		
金井	宣一	荒川	平八郎		
齊藤	芳雄				

鎌倉市 4名

板垣	光昭	三宅	達也		
山田	修一	三矢	篤信		

逗子市 3名

中島	茂美	室谷	澤二		
越田	逸之助				

藤沢市 7名

田村	真	山田	政雄		
河野	潔	石坂	甫		
藤田	実美	杉本	士郎		
飯島	俊男				

平塚市 3名

諸星	喜市	矢野根	賢三		
白根	春夫				

相模原市 3名

詠薰	本田	田四郎			
樋山	博司				

県下各市町 9名

石井	一市	山口	三夫		
大串	定典	竹下	連幸		
羽島	豊治	加藤	儀一		
吉沢	定治	川瀬	雅		
北浜	清				

東京都 9名

小野	櫻太	倉本	幸夫		
福島	康文	小沼	恭子		
山崎	隆道	青木	脩		
進藤	寿久	歌川	正雄		
八木橋	眞				

各県 3名

筒井	一郎	尾崎	勝敏		
小宮	久一				

横浜市内会員 128名

市外会員 55名

合計 183名

—あとがき—

々には今更ながら申し訳なく感じました。

昭和46年、創立10周年記念事業として、会報を印刷するつもりで、会長をはじめ皆さんから原稿をいただき編集にかかりました。

丁度この頃紙及び印刷費が急騰し、見積もられたところとても手の出ない値段であったので中止いたしました。

その直後の8月に加藤会長がなくなり、今でも原稿は保存して居りますが後悔しています。

今回はこういうことのないよう準備を進めましたが、日常業務に追われ、なかなか編集が進みませんでしたが、小林会長を始め多くの会員の方々のご協力にはげまされ何とかまとめることができ出来心から感謝いたしております。

編集にあたり、記事を少くし、記録を多くしましたのは、横浜発明懇話会という名称はこれで最終となるからです。

(事務長 一之瀬 喜一)

会報発行に御協力いただいた方々

(有) コバヤシ テンチ
ケンキュウジョ

茅ヶ崎市東海岸北 5-10-56

電話 0467-82-4287

代表取締役 小林甲蔵

シゴト

電気化学、研究
バッテリー、研究
発明、技術ノ提供

メモリアルプレート

此の商品は写真、文字等を錆びない熱に強い金属板に彫りこみ、更に特許の耐熱加工が施してありますので火災にも耐えます。家系図、表彰記念、叙勲記念、婚礼、古希、喜寿、米寿、業績、社歴、等の記録に個人・官庁、会社、組合、団体等に御利用頂だき喜ばれます。アルミや銅板で作ったものとは比較にならない耐久力があり後世に記録を明確に伝え歴史を証言する比類のない商品です。一名スーパータイムカプセル。

代表取締役 川村秀義

リバー工業株式会社
〒231 横浜市中区本牧緑ヶ丘42番地
電話 621-8057 番

NK理想魚焼・合せ魚焼・金網製品
NK物干ハンガー・室内用ハンガー各種

株式会社 NK製作所

代表取締役 成宮庄次郎

工場、事務所 東京都足立区千住1-78
03-888-7326~7

本社 横浜市港北区菊名町322
045-401-9976

SANGO

金網全般・線材スポット熔接加工
プラスチックコーティング・パイプ樹脂皮膜
軽量天井間仕切工事・ジムエース金属
軽量床工事・一般建築設計施工

新製品紹介

システム什器 ダンダン
コンクリート強化材 テッサ
二色カラーの金網 ゼブラフェンス
さびないバッドワイパー ゼブラバーブ

株式会社 サンゴ

本社工場 横浜市港北区鳥山町649番地
電話 横浜(045)473-3535(代)

港北工場 水戸工場 大阪工場 小倉工場
東京支店 山形営業所

株式会社
相 模 商 会

代表取締役 石 黒 安 之 助

各種プレス金型・設 計・製 作
プレス加工・ワイヤーカット加工

〒230 横浜市鶴見区東寺尾3-3-26
電話 045(572)5514(代)

明日を刷る

東邦印刷株式会社

横浜市南区高根町3丁目18番地
TEL. 045 252-5432

OA時代をプランする
オフィスデザインシステム(ODS)から
システムキッチンまで…。

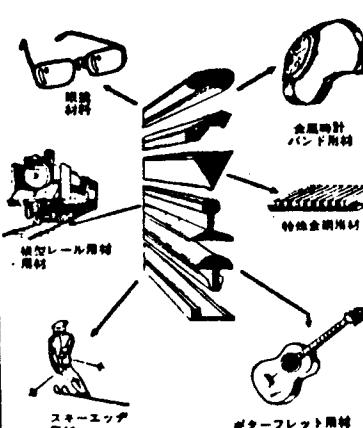
オフィス家具●ホームインテリア家具
●パブリックインテリア家具●パーテイション●建材・空調機器●物流機器
●店舗用システム機器●産業機械

よい品は結局おトクです

大 カ ハ ラ

株式会社 岡村製作所
本社●横浜市西区北幸1-4-1(天理ビル)
電話 045(319)3401(代)
取締役社長／吉原謙二郎

精密異形線



株式会社 三晃製作所

厚木工場 神奈川県綾瀬市早川2647番地14
(〒252) 早川工業団地 TEL. 0467(76)10116
本社 横浜市保土ヶ谷区上星川町392(〒240)

堀田健蔵特許事務所

弁理士 堀 田 健 蔵

〒236 横浜市金沢区平潟町13の5

電話 045(781)8142

若草病院を尋ね、その正門を左側に見て
立てば前方に交通のための鏡あり、その
側の電柱に目印あり。発明へのアドバイ
スは奉仕します。電話で連絡を。

大貫特許事務所

弁理士 大 貫 和 保

〒150 東京都渋谷区神宮前6-19-15

高野第一ビル7F

電話 03(409)0350

自宅 〒227 横浜市緑区奈良町2913

奈良北団地6-612

電話 045(962)6327

SEO®

ホイスト式 天井クレーン
クラブ式 橋形クレーン の製造・サービス・リース
ジブクレーン

労働省クレーン製造認可工場

株式会社 セオクレーン

本社 〒220 横浜市西区平沼1-7-5

TEL (045)323-2074(代)

工場 〒252 神奈川県綾瀬市深谷6607-7

神奈川県綾瀬工業団地内

TEL (0467)78-6880(代)

特許権(発明) 意匠権(形状模様)

実用新案権(考案) 商標権(名称標識)

小 塩 特 許 事 務 所

弁理士 小 塩 盛

自宅 〒239 神奈川県横須賀市津久井120

電話 (0468)49-1050

事務所 〒 東京都港区西新橋二丁目6番1号

105 新二和東ビル3階

電話 (03)591-2222番

(特殊専門分野: 金属・材料・加工・機械・装置)

加々美特許事務所

弁理士 加々美 敬 司

〒221 横浜市神奈川区松見町2-1-5 電話 421-0574

松見が丘ハイツB501

(JR線、横浜線、大口下車、菊名方向に約800m歩く、右側)

内外国特許商標

岡本特許事務所

弁理士 岡本 覚

〒104 東京都中央区築地2-15-13 電話 03-541-0913
0960

自宅 〒233 横浜市南区清水ヶ丘157 電話 241-4015

→企業の発展はアイデアから←

新製品は発表する前にまず出願を……

特許・実用新案・意匠・商標

{出願・審判・訴訟等・手続の代理}
(調査・鑑定・契約・相談)

福島国際特許事務所

弁理士 福島 康文 ☎ (03)723-9595

事務所 〒154 東京都世田谷区高井戸2-12-18 高スマンション102
住所 〒157 東京都世田谷区砧4-15-1-409 (03)417-2730

精密挽物 黄銅・アルミ・ステンレス
の切削加工
路面標示施工機

三工株式会社

代表取締役 矢嶋克己

横浜市港北区富士塚2丁目12-20

TEL 横浜 (045)432-3895(代)

松永特許事務所

弁理士 松永宣行

〒105 東京都港区虎ノ門3-4-17 虎友ビル3F
電話 03(434)0667(代)

地下鉄日比谷線神谷駅、銀座線虎の門駅下車、
発明会館より2分、農林年金会館前

平日 9:30~5:30 (土) 12時30分まで
自宅 〒244 横浜市戸塚区舞岡町2116-33 821-2433

木脇特許事務所

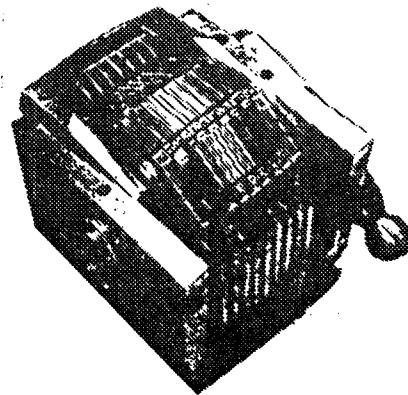
弁理士 木脇不美男

〒152 東京都目黒区鷺番2-9-2 電話 03-714-7953
(東横線、学芸大下車、5分、商店街を東へ通り抜けたところ)

毎週、水、木、午後1時~4時、横浜工業館において、発明
相談を行っています。

Sun のバーコード 番号器

これらの商品は全てバーナンバーで
処理されます。すぐれた技術の集り…



各種印刷番号器製造

サン株式会社

横浜市中区本牧緑ヶ丘48 〒231
☎ 045(621)8821~8823

日亜機械工業株式会社

代表取締役 藤井義郎

横浜市中区翁町1丁目4番地14 浜吉ビル

TEL 045-641-8203 代表

1. 原子力、火力、発電機器、
プラントの設計製図

2. 各種構造物の設計、製図

NIKKO

ニッポー

チェックライター
タイムレコーダー
時間管理システム
カフェテリアシステム
電子システムマシン
コンピュータ関連機器

取締役社長 知見愛民

ニッポー株式会社

本社 横浜市神奈川区羽沢町1656

☎ (045)381-7511

本社工場 神大寺工場 戸部工場

札幌 仙台 北関東 東京 千葉 横浜 名古屋 大阪 広島 高松 福岡

化石エネルギーから 創造エネルギーへ

貯湯タンク

円筒式ステンレス製



★石油は有限

★今こそ省エネの時季！

株式会社 北川製作所

横浜市神奈川区曾田町富士下2737
(045)471-5355㈹

視聴覚システム設備の設計施行
視聴覚機器の販売・レンタル・修理
(映写機 撮影機 スライド VTR OHP等)

株式会社 ゾナード

横浜市中区住吉町 6 - 78 大清ビル 3 F

電話 045(641)2851 代表

三 橋 良 夫	佐 藤 寛
横浜市旭区東希望ヶ丘79 ☎(045)391-2174	横浜市磯子区岡村5-1-32 ☎(045)751-3026
鈴 木 洋 二	三 宅 達 也
横浜市南区永田山王台23-9 ☎(045)711-4083	鎌倉市岩瀬599-5 ☎(0467)43-2973
山 田 勇	伊 藤 宗 一
横浜市緑区長津田町1688-103 ☎(045)981-0335	横浜市戸塚区笠間町1335
山 崎 一 男	笹 岡 義 人
横須賀市西浦賀町3-136 ☎(0468)41-7855	横浜市港北区日吉本町1717 ☎(044)61-2405
小 島 敏 彦	鳥 居 豊
横浜市保土ヶ谷区東川島町17-1 ☎(045)381-1795	別府市南須賀七組野上ハウジング301 ☎(0977)25-9340
藤 村 勇 治	加 藤 儀 一
横浜市西区岡野1-1-38 ☎(045)311-4014	南足柄市千津島2246 ☎(0465)74-6781
佐 久 間 盛 郎	北 浜 清
横浜市磯子区杉田2-4-15 ☎(045)771-7189	北浜医用技術研究所 津久井郡津久井町青野原1639 ☎(0427)87-1313

ラクラクおせくたく
手を濡らさず洗濯出来ます。
からまないのでことによくおちます。
製造販売元 ラクラク美和
横浜市旭区笹野台126
☎(045)391-1710

(有)鷺見フロア建設
鷺見元吾
横浜市鶴見区東寺尾1-23-25
☎(045)572-3244

あいかわスタジオ
相川宗八
横浜市金沢区大道1-47-12
☎(045)701-6870

針を使用しないワイシャツの包装
資材の販売
中野隆吉
横浜市中区大和町2-55
☎(045)622-7448

突切バイトの支持緊定装置
実開昭54-129880自動パイプ
切断機及び旋盤等に用いて特に肉厚各
種及びステンレス等の突切、切削をH、
メカニズムにして、省エネの効果とそ
の役割を十分可能とする。
越田逸之助
逗子市池子2-19-1324
☎(0468)73-2549
勤務先(045)541-1509

新築・増築・改築・修膳
見積・設計・無料
住まいのことならどんなことでも
お電話下さい。(会員割引奉仕)
星野米男建築事務所
横浜市磯子区岡村2-7-5
☎(045)751-3874

どんな小さな仕事でも
気易く御用命を

建築工事(鉄骨工事、木造工事) 鋼構物工事
サッシ、シャッター、非常階段等一般修繕工事
株式会社伊勢駒建設
横浜市南区前里町3-83
電話 045(241)3807(代表)3808番
取締役社長 太田恒次郎
